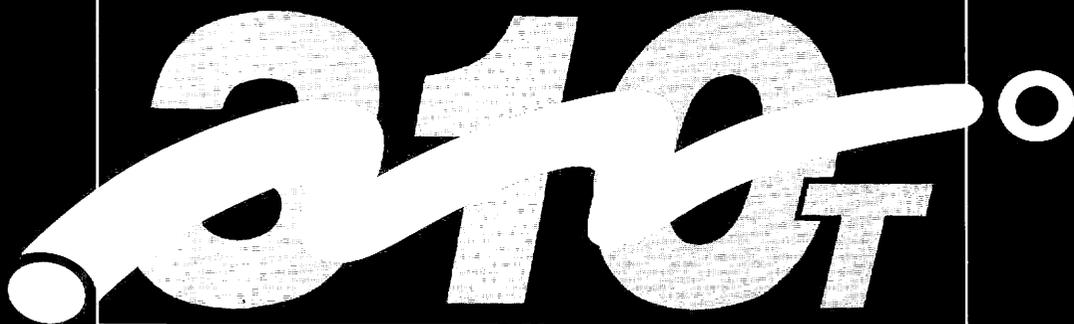


MAX®

マックス テープワープロ

LM-310T レイアウト



取扱説明書

- ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- この取扱説明書と保証書は必ず保管してください。
- 本書の内容を無断で転載する事は禁じられています。
- 本書の内容に関して、予告なしに変更することがあります。

はじめに

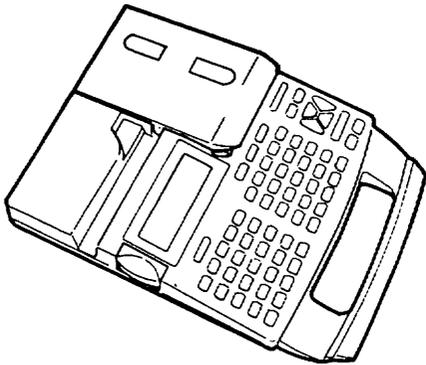
このたびは、マックステープワープロLM-310Tレタツインをご購入いただき、誠にありがとうございました。

本機はワープロの操作で簡単に電気設備の端子銘板ラベルの作成、マーキングチューブの作成が1台でできるよう、強力で便利な機能が豊富に搭載されています。もちろん、通常のテープワープロとしてお使いいただくうえでも本格派タイプのラベルが作成いただけます。

お客様のお仕事の効率アップときれいなラベル作成のお役にたてますよう、本書をいつもお近くにおいてご愛用いただくために、当取扱説明書にしたがって、お取扱い頂きますよう、お願い申し上げます。

〈ご使用上の注意〉

本機は住宅地又は隣接地域で使用する事を想定し、電波障害を防止する処置を行っています。しかし、本機をラジオ、テレビの受信機に近接して使用すると受信障害の原因になる事がありますので設置場所に注意してください。



ご使用上の注意

■表示について

この取扱説明書および商品は、本機を安全に正しくお使いいただくためにいろいろな表示を使用しています。その表示と意味は次のようになっています。

 警告：取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定され、絶対に行ってはいけないことが書いてあります。

 注意：取扱を誤った場合、使用者が障害を負う危険性が想定され、絶対に行ってはいけないことや、物的損害のみの発生が想定され、絶対に行ってはいけないことが書いてあります。また、作成したデータが消失する可能性があり、絶対に行ってはいけないことが書いてあります。

 **おしい**：本体が故障し修理が必要になる事が想定される操作や、現状復帰するためにリセットなどの操作が必要になるので絶対に行ってはいけないことが書いてあります。

 **メモ**：操作上のポイントおよび知っていると便利なことが書いてあります。

 **参照**：説明のページが異なる場合に参照するところが書いてあります。

★：機能上の注意点について説明してあります。

■絵表示について

 記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。

 記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は、具体的な禁止内容です。

 記号は「しなければいけないこと」を意味しています。この記号の中の表示は具体的な指示内容です。

ご使用上の注意

⚠ 警 告

	●電源は直接コンセントからとりタコ足配線はしないでください。火災の原因になります。
	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
 	●故障のまま機械を使わないでください。煙が出ている、変な音やにおいがするなど、故障状態のまま使用すると火災、感電の原因になります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。
	●リチウム電池(ボタン型電池)はお子様の手が届かないところに保管してください。オプション品のメモリカードには、リチウム電池が使われています。万一誤ってリチウム電池を飲み込んでしまった時は、すぐに医師の指示を受けてください。

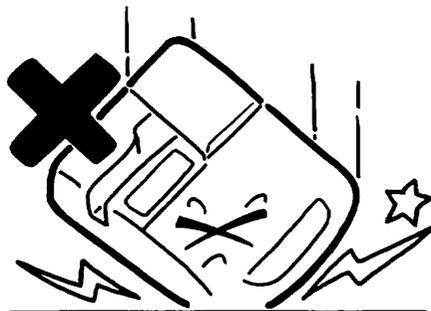
⚠ 注 意

	●内部メモリーに保存した内容は、永久的な保存はできません。電池消耗、故障、修理などに起因するデータ消失による損害、ならびに逸失利益については、責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
	●本機は絶対に分解または改造しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
	●本機の内部に指、ペン、針金、などの異物を差し込まないでください。本機が故障したり、火災の原因になります。
	●表示された電源電圧(AC100V)以外の電圧で使用しないでください。本機が故障したり、火災の原因になります。
	●水、薬品などが機械にかからないようにしてください。万一内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントからすぐに抜いて販売店に修理をご依頼下さい。そのまま使用すると本機が故障したり、火災、感電の原因になります。
	●紙や布を本機の上にかぶせたり置いたりしないでください。火災や故障の原因になります。
	●本体付属のACアダプタ以外のACアダプタで使用しないでください。本機が故障したり、火災の原因になります。
	●アダプターを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ず電源プラグを持って抜いてください。コードが破損して火災や感電の原因になります。
	●プリンタヘッドには絶対にさわらないでください。印刷直後のプリンタヘッドは高温になっており、やけどをする恐れがあります。また、手の汚れがプリンタヘッドの故障の原因になることがあります。
	●連休等で長期間ご使用にならないときは、安全のために必ずアダプターを本機から抜いて下さい。また、アダプターをコンセントから抜いてください。
	●カッター刃には、絶対手を触れないで下さい。
	●金属部には、絶対手を触れないで下さい。けがをする恐れがあります。

ご使用上のお願い

お願い 機械のトラブルを避け本機の故障を未然に防止するために、下記の事項を必ず守ってください。

- ①本機は精密機械です。落としたり、強い衝撃を与えないでください。



- ②テープカセットカバーをつかんで持ち上げないでください。カバーが落下することがあります。
- ③寒い屋外から暖房のきいた室内に持ち込んだときなど、急激な温度変化により、本体内部が結露（けつろ）することがあります。このときは室内に30分以上放置して、露がとれたことを確かめてから使用してください。
- ④次のような場所でのご使用や保管はおやめください。
- 直射日光のあたるところ
 - ほこりの多いところ
 - ストーブやスチームなどの近くなど、極端に温度や湿度の高いところ
ご使用の目安となる温度・湿度は、それぞれ10～35℃、20～80%です。
 - 振動の多いところ
 - 水滴のかかるところ
- ⑤重いものや水の入ったものを、本体の上のにせないでください。
- ⑥テープをテープカセットから引き出さないでください。
- ⑦テープ出口からテープを絶対に引っ張らないでください。



ご使用上のお願い

- ⑧テープ出口をふさいだり、ものを入れたりしないでください。
- ⑨印字品質を確保するため、長時間連続でのプリントはおやめください。
- ⑩お手入れの際、シンナーやベンジンなどは使用しないでください。ケースの変形や変色の原因となります。
- ⑪長時間使用しないときは、電池を抜いてから保管してください。電池が液漏れして故障の原因となることがあります。なお、電池を抜くと、本体内部に保存されているファイルなどはすべて消えますのでご了承ください。
- ⑫保管するときや輸送するときは、テープカセットやオプションカートリッジを抜き、ご購入の梱包箱をお使いください。

目次

1. お使いになる前に	
1. 1 レタツインLM-310Tの特長	3
1. 2 付属品の確認	4
1. 3 ご使用前の準備	5
1. 3. 1 主な各部の名称	5
1. 3. 2 乾電池の入れ方	6
1. 3. 3 ACアダプタの使い方	7
1. 3. 4 カセットの入れ方	8
2. 基本操作	
2. 1 電源のON/OFFと注意事項	13
2. 2 キーボードの説明	15
2. 3 機能フロー	18
2. 4 ディスプレイの見方	21
2. 5 試しに使ってみましょう	22
3. 文字の入力	
3. 1 文字の大きさを決める	27
3. 1. 1 文字サイズとテープ・ チューブサイズの組み合わせ	27
3. 1. 2 文字サイズの設定(1) 文字高さを決める	29
3. 1. 3 文字サイズの設定(2) 半角・倍角の設定	30
3. 2 入力方法を選ぶ	32
3. 2. 1 選べる入力方法	32
3. 2. 2 入力方法の切り替え方	33
1) 英数字入力を選ぶ	33
2) かな入力を選ぶ	34
3) ローマ字入力を選ぶ	34
3. 3 文字を入力する	35
3. 3. 1 ひらがなを入力する	35
3. 3. 2 カタカナを入力する	36

目次

3. 3. 3	漢字を入力する	3 7
1)	熟語の漢字変換	3 7
2)	漢字 1 文字の変換 (単漢字変換)	3 8
3)	読みの短縮と伸ばし	3 9
4.	入力した文字の編集	
4. 1	文字の大きさを変える	4 3
4. 1. 1	文字サイズの変更 (文字高さを定める)	4 3
4. 1. 2	文字サイズの変更 (半角・倍角の変更)	4 5
4. 2	文字の削除・挿入	4 7
4. 3	2 行に入力する	4 9
4. 4	2 行書きと 1 行書きを混在させる	5 0
4. 5	あらかじめラベルの長さを定める	5 1
4. 6	文字間の広さを定める	5 2
4. 7	ラベル左右の余白の設定	5 3
4. 8	枠をつける	5 5
4. 9	縦書きにする	5 6
5.	印刷する	
5. 1	レイアウトの確認	5 9
5. 2	印刷と切り離し	6 0
6.	応用操作	
6. 1	ピッチ印刷を行う	6 3
6. 1. 1	ピッチ印刷とは	6 3
6. 1. 2	ピッチ長の設定	6 4
6. 1. 3	ピッチ入力の方法	6 5
	テープ使用でピッチ指定時の入力可能文字数の例	6 7
6. 2	同じラベルを何枚も作る (連続印刷)	6 8
6. 3	連番でラベルを作る (連番印刷)	6 9
6. 4	内蔵されている記号を呼出す	7 0
6. 5	良く使う言葉を登録して使う	7 1

目次

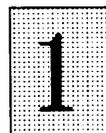
6. 5. 1	語句を登録する	7 1
6. 5. 2	登録してある語句を呼出す	7 2
6. 5. 3	登録した語句を削除する	7 3
6. 5. 4	登録した語句をすべて削除する	7 4
6. 6	メモリーカード（別売品）の使い方	7 5
6. 6. 1	メモリーカードの入れ方	7 5
6. 6. 2	メモリーカードの初期化	7 6
6. 6. 3	文書の登録	7 7
6. 6. 4	登録文書の呼び出し	7 8
6. 6. 5	登録文書の削除	7 9
6. 6. 6	メモリーカードの電池交換	8 0
6. 7	複写、貼付をする	8 1
6. 8	オプションチューブアタッチメントの使い方	8 2
6. 8. 1	オプションチューブアタッチメントの セット方法	8 2
6. 8. 2	アタッチメントを使用してチューブ印刷	8 3
6. 8. 3	アタッチメントを使用してチューブを作る	8 5
7.	レタツインを使いこなす	
7. 1	ピッチ印刷の応用例	8 9
7. 1. 1	印字長が同じで内容が 異なるラベルを同時に作る	8 9
7. 1. 2	連番のピッチ印刷を行う	9 0
7. 1. 3	ピッチ印刷機能でチューブを作る	9 1
7. 1. 4	ピッチ印刷で2ケタの縦印字を行う	9 2
7. 1. 5	ピッチ印刷で2行印字を行う	9 3
7. 1. 6	連番の入った端子銘柄を作る	9 4
7. 2	チューブアタッチメントを使った応用例	9 6
7. 2. 1	マーキングチューブをハーフカット を入れて2本ずつ作る	9 6
7. 2. 2	連続、連番機能を使って マーキングチューブを2本ずつ作る	9 8

目次

7. 3	特殊小文字で小さなラベルに多行の文字を印刷する	1 0 0
7. 4	同じ内容で複数枚のラベルに連番を印刷する	1 0 1
7. 5	8進数、16進数で連番印刷をする	1 0 2
7. 6	文字幅を固定する	1 0 3
7. 7	オートパワーオフの取消し	1 0 4
7. 8	キー音の取消し	1 0 5
7. 9	J I Sコードによる漢字の入力方法	1 0 6
7. 10	6と <u>6</u> 、 <u>6</u> .の切り換え	1 0 7
8. 付 録		
8. 1	ローマ字入力表	1 0 9
8. 2	記号一覧	1 1 0
8. 3	漢字J I Sコード表	1 1 2
8. 4	主な仕様	1 2 9
9. メンテナンス		
9. 1	故障かなと思うまえに	1 3 3
9. 1. 1	エラーメッセージ一覧	1 3 3
9. 1. 2	ハーフカッタユニットの交換	1 3 5
消耗品・オプション品一覧		1 3 6

1. お使いになる前に

1.1 レタツインLM-310Tの特長



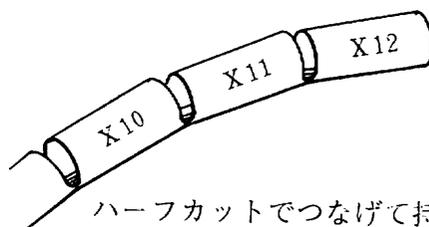
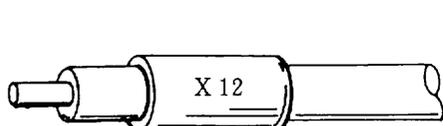
従来のラベル印刷機能に、マーキングチューブ印刷機能を加えた機械です。特に、マーキングチューブは、マックス専用チューブ、一般市販チューブも印刷可能な機械です。自動ハーフカット機能付きで、チューブに切り残しを作り、一度の大量のマーキングチューブが作れます。

1. マーキングチューブ印刷機能

使用チューブは

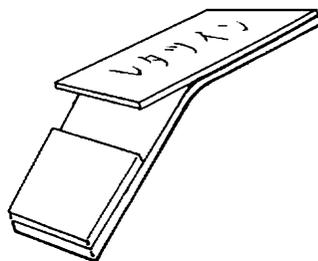
- マックス専用チューブ：カセットタイプ、マックス丸チューブ
(各φ3.2、φ3.6、φ4.2、φ5.2)
- 一般市販チューブ：φ3.2、φ3.6（チューブアタッチメント使用）

用途に合わせてご使用可能です。



2. ラベル印刷機能

- 従来のラベル印刷機になかったハーフカット機能の採用により、剥離紙を切らずに、テープのみをカットし、シールを剥がす感覚でご使用出来ます。
- ピッチ印刷機能採用により、一寸した盤改造時の端子記名板印刷ができます。

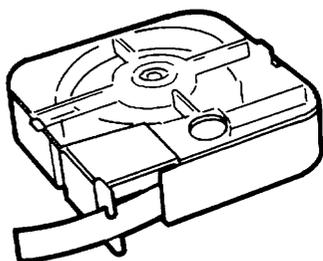


3. その他豊富な機能

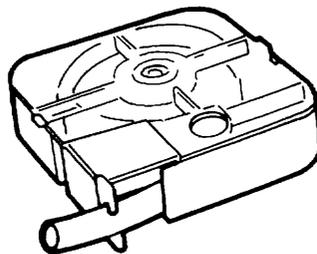
- ラベル印字の数字の連番印字が可能です(8進、10進、16進指定が出来ます)。
- ラベル印字を複数枚指定印字が可能です。
- 汎用機に無い各種記号、電設記号、アルファベット筆記体、数字6を内蔵しています。
- 文中の文字列を複写出来る機能を採用。

1.2 付属品の確認

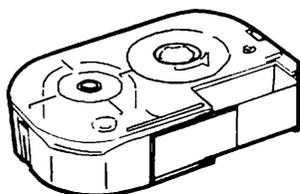
1 お買い上げのLM-310Tの梱包内には、以下の付属品が入っています。
ご使用前に確認して下さい。



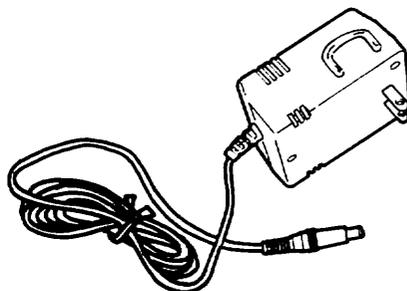
テープカセット 9 mm
(白色テープ)



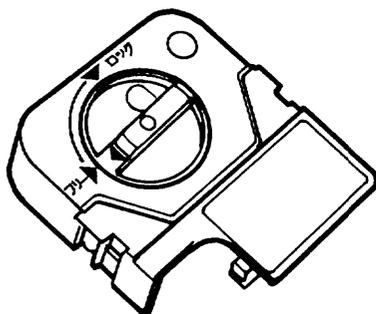
チューブカセット
(内径3.6相当)



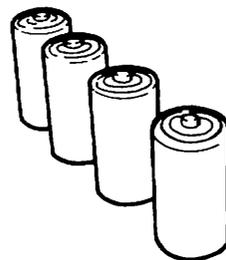
インクリボンカセット (黒色)



ACアダプタ



チューブアタッチメント)

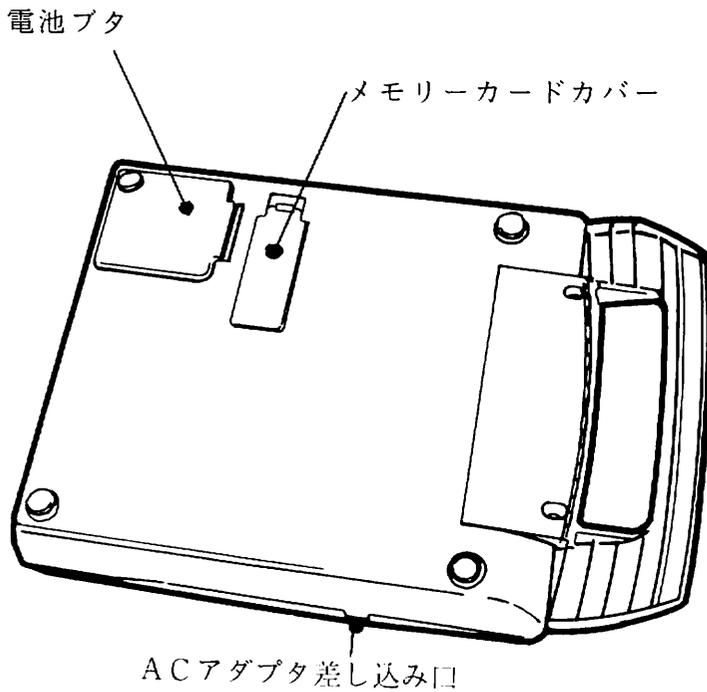
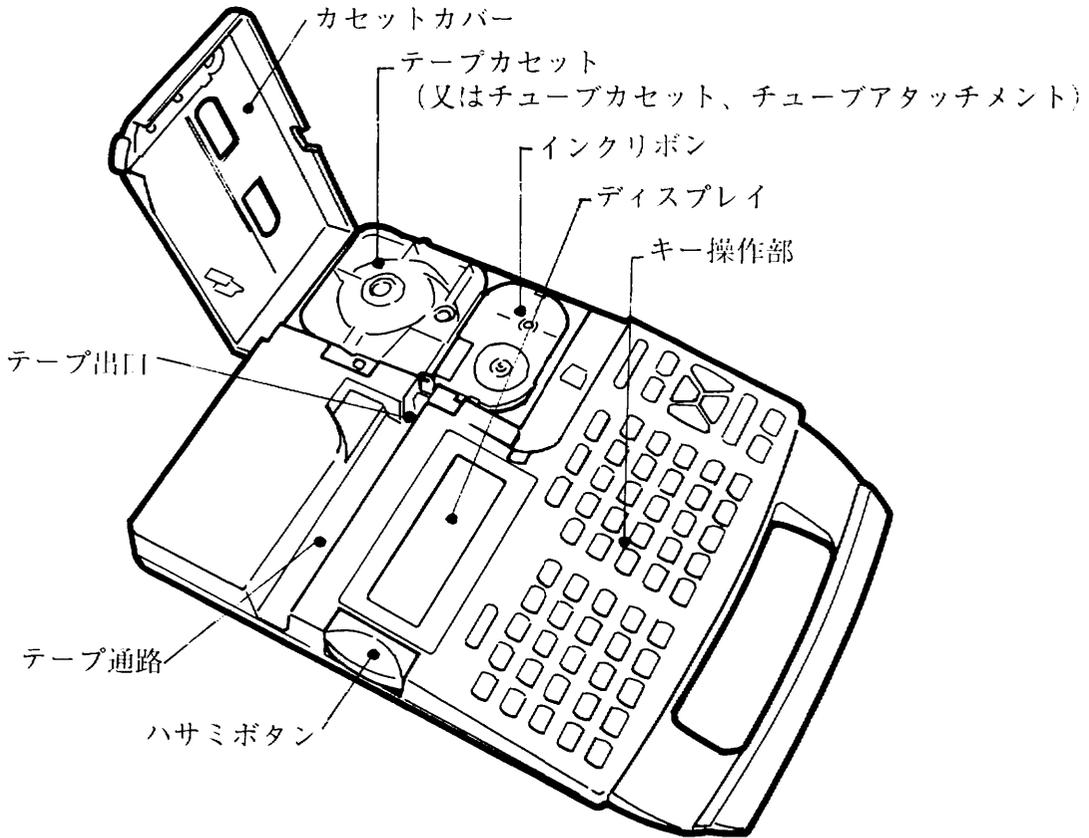


単2アルカリ乾電池
(4本)

1.3 ご使用前の準備

1

1.3.1. 主な各部の名称

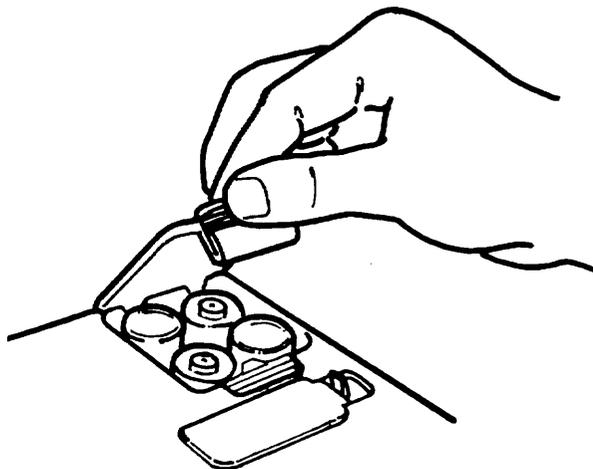


1.3 ご使用前の準備

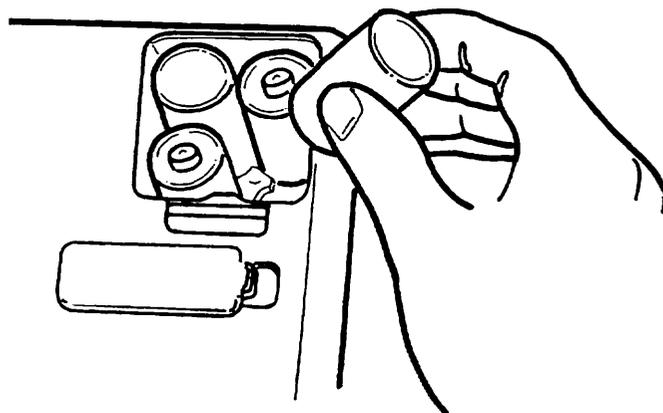
1.3.2. 乾電池の入れ方

1

①電池ブタを取る。



②アルカリ単2乾電池4本を図の向きにセットします。
(必ず図の様にセットして下さい。故障の原因になります。)



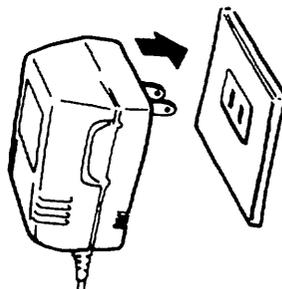
お願い 乾電池は、必ずアルカリ単2乾電池をご使用ください。
マンガン電池等では正しく作動しないことがあります。

1.3 ご使用前の準備

1.3.3. ACアダプタの使い方

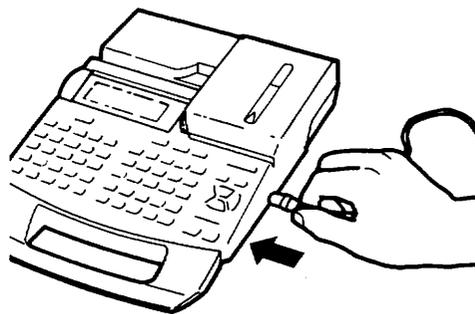
1

- ① ACアダプタのプラグを家庭用コンセント(100V)に差し込みます。

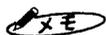


⚠ 注 意	
⊘	● 本体付属のACアダプタ以外のACアダプタで <u>使用しないで</u> ください。本機が故障したり、火災の原因になります。
⊘	● アダプターを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ず電源プラグを持って抜いてください。コードが破損して火災や感電の原因になります。
⊘	● 表示された電源電圧(AC 100V)以外の電圧で <u>使用しないで</u> ください。本機が故障したり、火災の原因になります。

- ② ACアダプタのジャックを本機右側面の差し込み口にしっかりと差し込みます。



⚠ 注 意	
⊘	● 連休等で長期間ご使用にならないときは、安全のために必ずアダプターを本機から抜いて下さい。また、アダプターをコンセントから抜いてください。



乾電池の装着が無いと、ACアダプタを抜くと語句登録の内容や画面上の入力文書は消え、各設定内容は初期値へリセットされます。

ACアダプタの接続に関わらず、乾電池をセットしてお使いになることをお勧めいたします。

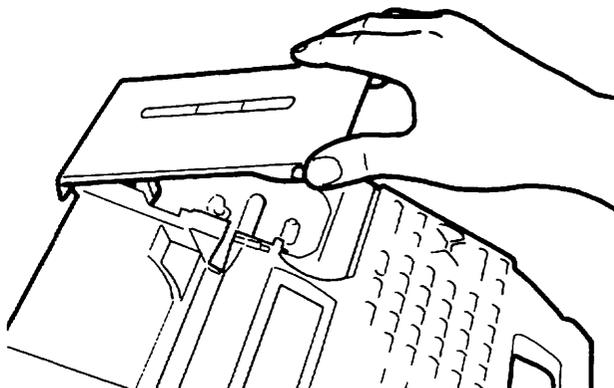
1.3 ご使用前の準備

1

1.3.4. カセットの入れ方

カセットカバーをあけます。

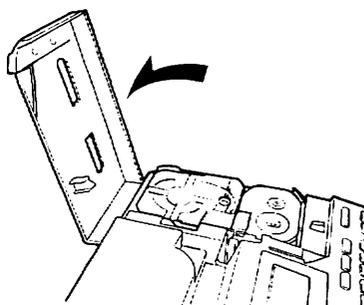
- ①ロック解除ボタンをおしながら、上へあげます。ほぼ垂直になるまであけてください。



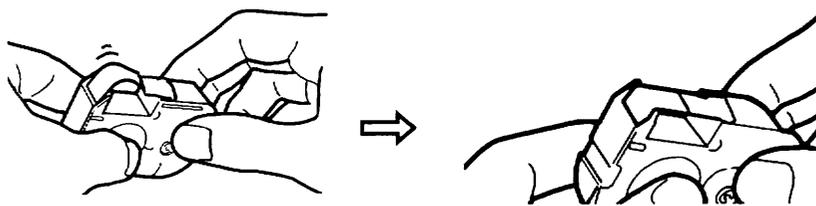
※強い力であけすぎると、ふたが外れますが、故障ではありません。

1) インクリボンの入れ方

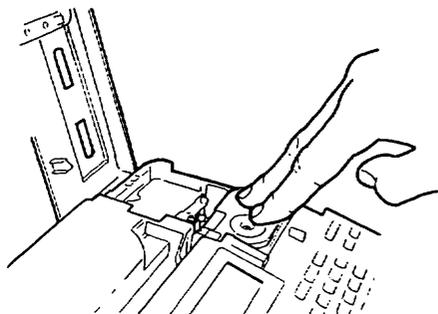
- ①まわり止めの紙を外します。



- ②リボンのたるみをとります。



- ③本体に真上から、しっかり下へつきあたるまで押してセットします。



- ④リボンのたるみ取りが不十分な場合は、ここでテープ送りを行って下さい。

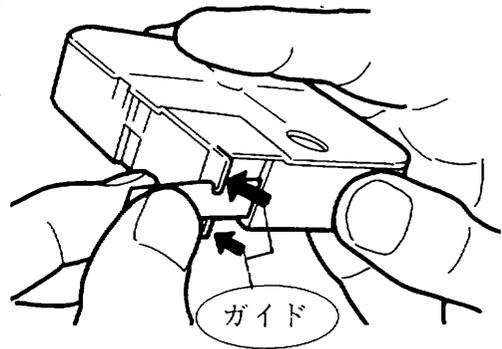
機能 キーを押した後、**印刷** キーを押して下さい。

1.3 ご使用前の準備

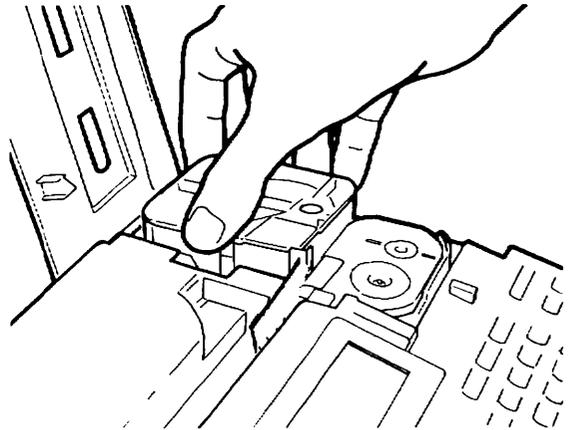
1

2) テープカセットおよびチューブカセット

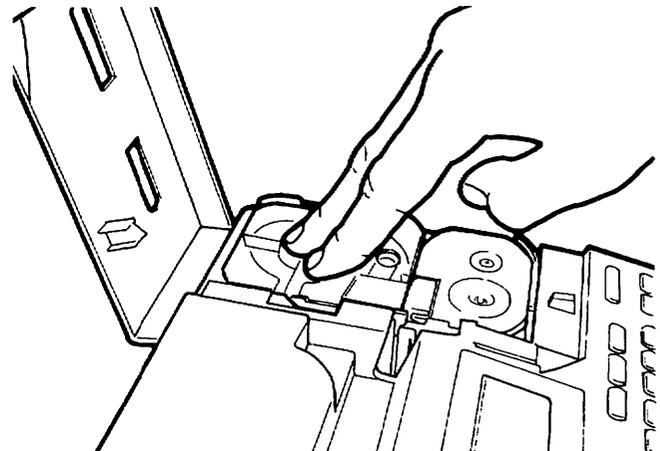
- ①テープ（チューブ）がカセットのガイドから外れていない事を確認して下さい。万一外れていた場合は図のようにガイドに通して下さい。



- ②テープ（チューブ）を少し引き出し、テープ出口の隙間に沿わせませす。



- ③真上から突き当たるまで押してセットします。



- ④チューブアタッチメントの入れ方は82ページをご覧ください。

2. 基本操作

2.1 電源のON/OFFと注意事項

(1) 電源の入れ方

1. キーボード右上の青色のON/OFFキーを押します。

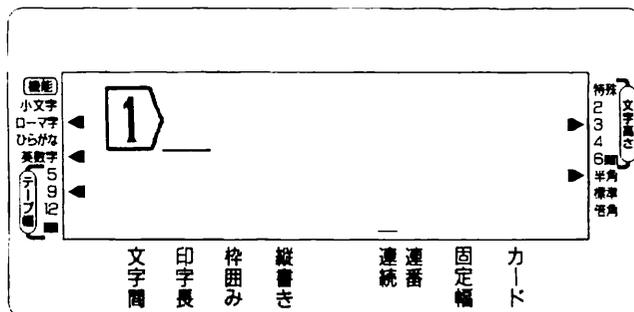


2

ディスプレイが右図のような表示を行った後、
下図の画面に移ります。

全登録
メモリー 初期化

2. 乾電池がセットされていて、
すでに入力がされている場
合は、その文字や設定内容
を示すインジケータが点灯
します。



3. テープカセットがすでにセットされてい
る場合はテープ幅を示すインジケータも
点灯します。



※ 5分間でオートパワーオフ

電源スイッチがONのまま約5分間何も操作されなかったときは、電池の消耗を防ぐために自動的に電源が切れます。

再度、スイッチを押すと、ディスプレイが点灯し元の内容が表示されます。

⚠ 注 意

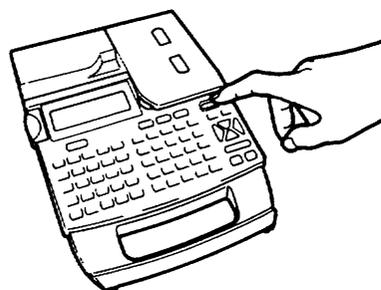


- 内部メモリーに保存した内容は、永久的な保存はできません。電池消耗、故障、修理などに起因するデータ消失による損害、ならびに逸失利益については、責任を負いかねます。

2.1 電源のON/OFFと注意事項

(2) 電源を切る

1. キーボード右上の青色のON/OFFキーを押します。

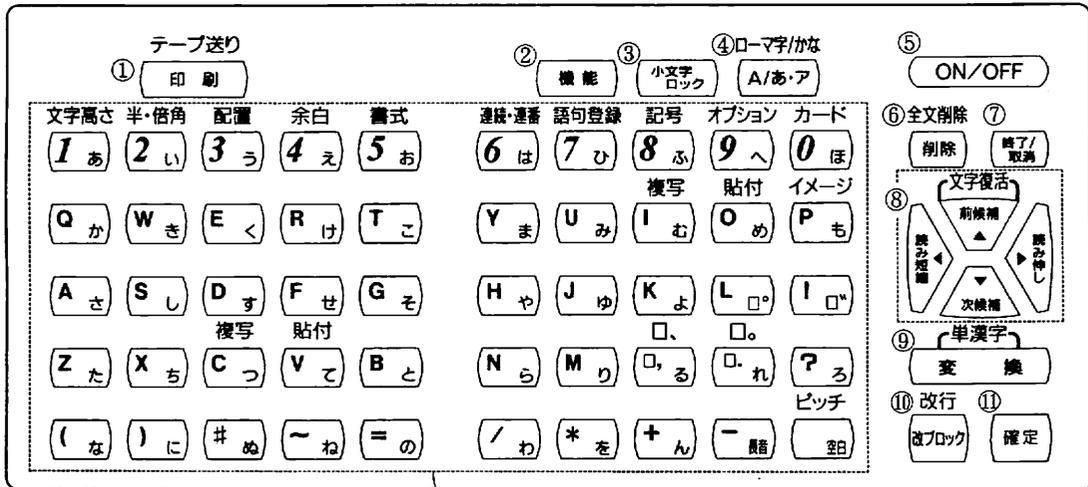


2. ディスプレイの表示が消えます。
電源スイッチを切っても、確定された文字や機能設定の内容は保存されます。再度電源スイッチを押すと、元の内容が表示されます。
但し、アダプタのみ(乾電池をセットしない)で、使用している場合は、アダプタの接続を外すと、元の内容は消去されます。
3. カセットカバーを開けると電源はOFFされます。
電源ONの状態でも、カセット交換等でフタを開けると、電源はOFFされます。

お願い

アダプタの接続と取り外し、メモリーカードの接続と取り外しは、電源OFFの状態で行ってください。
メモリーカードの電池交換の際は、電源ONの状態で行ってください。

2.2 キーボードの説明



→⑫文字キー

- ① **印刷** : 入力した文章の印刷や、テープ送りのみを行います。
- ② **機能** : 上側のケース部に示されている機能を使うときに押します。
- ③ **小文字ロック** : 英字の小文字や促音（小さい「っ」など）を入力するときに使います。
- ④ **A/あ・ア** : 入力方法の切換に使います。
- ⑤ **ON/OFF** : 電源をON/OFFします。
- ⑥ **削除** : 入力した文字や文書の削除をします。
- ⑦ **終了/取消** : 機能設定時に1つ前の画面に戻ります。
文字入力時に漢字変換の取消をします。
- ⑧ **前候補** **次候補** **読み短縮** **読み伸し**
: 機能設定時の項目選択やカーソルの移動に使います。
漢字変換中に、表示候補の切り換えや、読みの短縮・伸ばしに使います。
- ⑨ **変換** : 漢字変換に使います。
- ⑩ **改ブロック** : 入力した文書の右側に新しい行（ブロック）を作ります。
1行目のマーク **1** を両面に表示します。
- 確定** : 変換中の漢字候補の確定や、機能設定時の選択した項目の確定に使います。
- ⑫ **文字キー** : 文字を入力します。キー上部のケースに機能が示されているキーは、②の **1あ** **2い** … 機能キーとあわせて押すことにより、示された機能設定、又は機能を働かせます。

2

2.2 キーボードの説明

《機能キーの使い方》

- 機能** → **前候補** ▲ 確定文書中で直前に削除された1文字を表示に戻します。
- 機能** → **変換** 入力されたひらがなを単漢字に変換します（画面一覧表示）。
- 機能** → **読み短縮** ◀ カーソルを確定文書の頭（文頭）に移動します。
- 機能** → **読み伸し** ▶ カーソルを確定文書の末尾（文末）に移動します。
- 機能** → **P** ピッチ印刷用の入力に用います。各文書の始まりを示すピッチマーク **P** を表示します。
- 機能** → **1あ** これから入力する文字サイズ(文字高さ)の決定、およびすでに入力・確定した文字サイズ(文字高さ)を変更するための設定画面に移ります。
- 機能** → **2い** これから入力する文字を半角・倍角にする場合、およびすでに入力・確定した文字を変更するための設定画面に移ります。
- 機能** → **3う** ピッチ長、印字長、文字間の変更を行う設定画面に移ります。ピッチ長はピッチ入力の宣言をしている場合のみ画面に表れます。
- 機能** → **4え** 左右の印刷マージン(余白)の変更を行う設定画面に移ります。
- 機能** → **5お** 枠囲み、縦書きの指定を行う設定画面に移ります。
- 機能** → **6は** 連続印刷・連番印刷の指定を行う設定画面に移ります。
- 機能** → **7こ** 5文字までの語句の登録を行い、またその語句の呼出し、削除を行う、機能の設定画面に移ります。
- 機能** → **8さ** 各種記号の呼出しを行う画面に移ります。

P.

2.2 キーボードの説明

2

機能 → 

オプション機能の設定画面に移ります。

連続カット・連番設定(8、10、16進指定)・文字幅・ピッチ
カット・「6」印字・低温モード・キー音・パワーオフ

機能 → 

メモリーカードの操作画面に移ります。

機能 → 

イメージ表示を行わせる操作です。

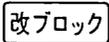
機能 → 

漢字のJ I Sコード入力 of 操作に移ります。

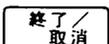
かな入力を選択しているとき  読点「、」の入力となります。

 句点「。」の入力となります。

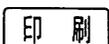
(ローマ字入力を選択しているとき  読点「、」の入力となります。
 句点「。」の入力となります。)

機能 → 

2行目の入力を指定し  の表示がされます。

機能 → 

設定初期化。設定を初期状態に戻します。

機能 → 

テープのみ送ります。

機能 → 

ピッチ印刷入力画面に移ります。

機能 → 

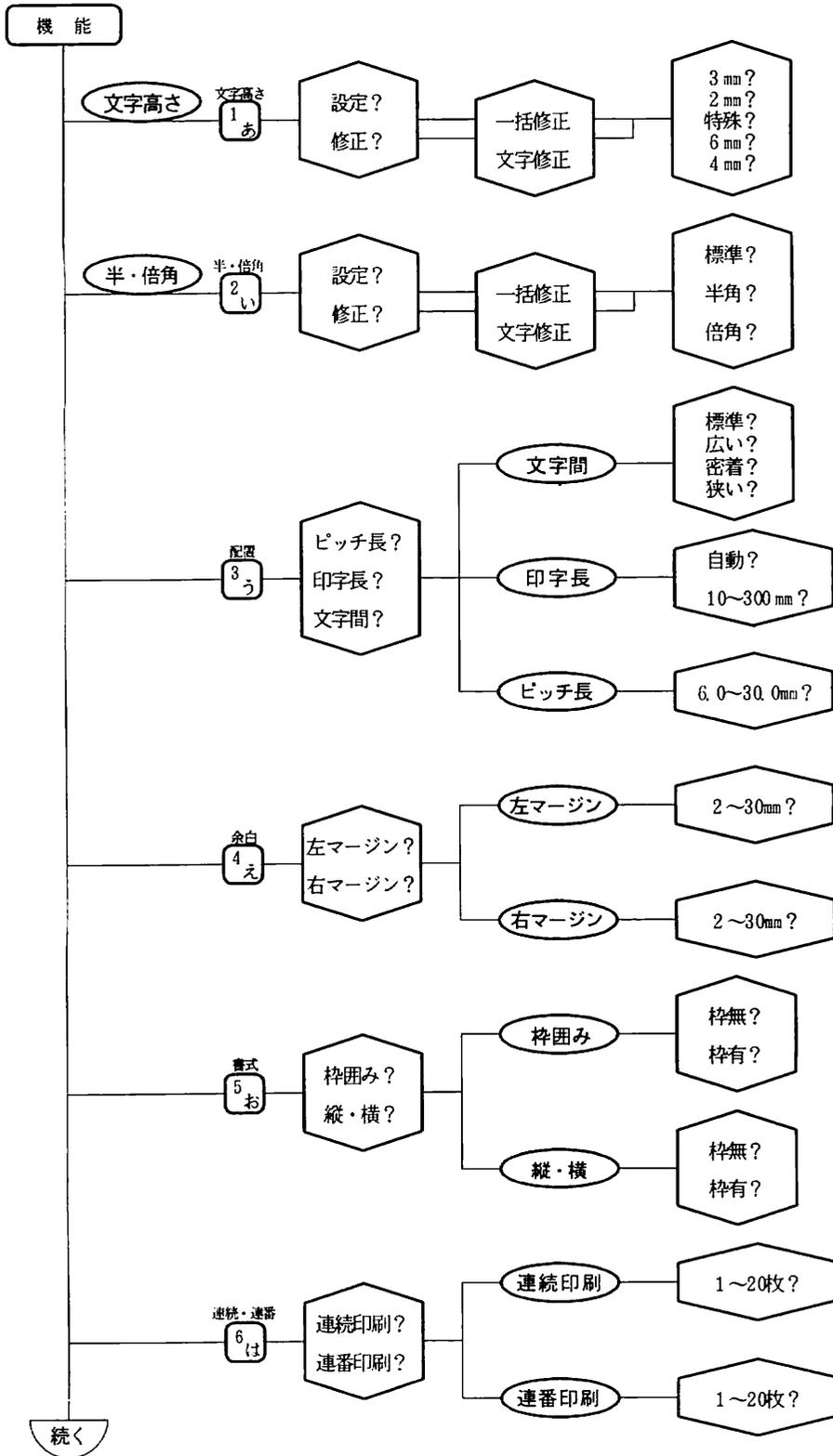
文書中の文字列の複写開始位置を指定します。

機能 → 

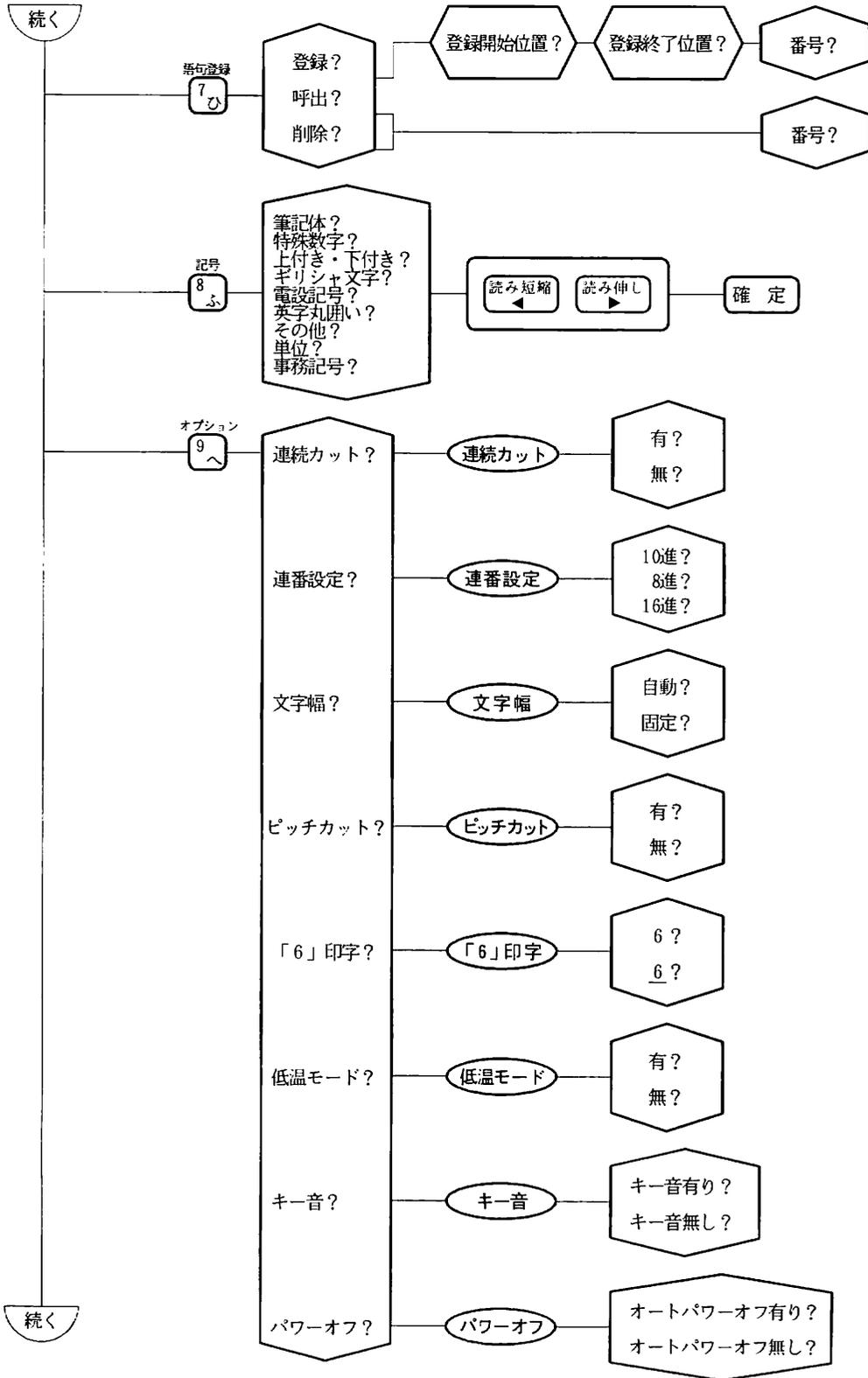
複写位置を指定して、複写します。

2.3 機能フロー

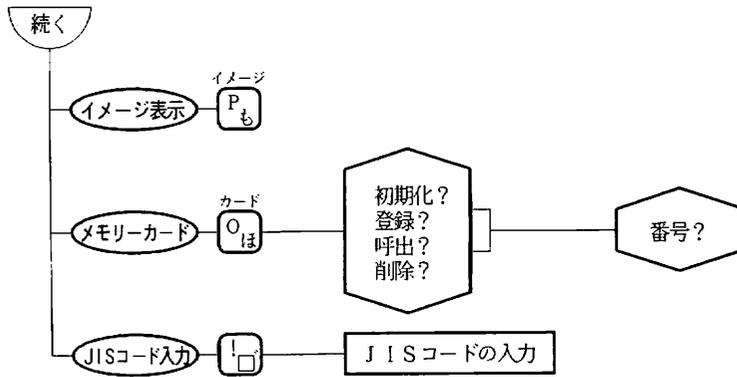
2



2.3 機能フロー



2.3 機能フロー

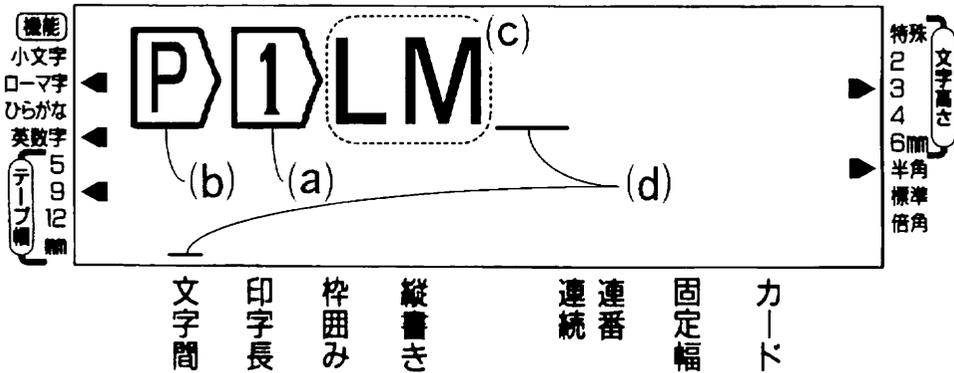


ダイヤモンドマークの意味

文字復活
前候補 ▲
次候補 ▼

のキーを使って枠内を選択し、**確定** キーを押します。

2.4 ディスプレイの見方



2

- (a)行マーク：マークの直後から入力される文字が印刷される行数を表します。
 (b)ピッチマーク：ピッチ印刷をする場合の、ピッチ・ブロックを表します。
 (c)確定文書：確定されている入力文書が表示されます。
 (d)カーソル：カーソル位置を示します。

- (1)機能：機能キーを押すと点灯します。点灯した状態で機能の示されたキーを押すと各機能の設定画面になります。
- (2)小文字：小文字ロックキーを押すと点灯します。英小文字や促音が入力できます。
- (3)ローマ字：ローマ字入力モードのときに点灯します。
- (4)ひらがな：ひらがな入力モードのときに点灯します。
- (5)英数字：英数字入力モードのときに点灯します。
- (6)テープ幅：セットされているテープの幅を表示します。
 チューブをセットしている場合は、5 mm幅のインジケータが点灯します。
- (7)文字高さ：これから入力する文字のサイズを表示しています。
- (8)半角、標準、倍角：これから入力する文字の横倍率を表示しています。
- (9)文字間：文字間を標準以外に設定したときに点灯します。
- (10)印字長：印字長を自動以外に設定したときに点灯します。
- (11)枠囲み：枠囲みを設定すると点灯します。
- (12)縦書き：縦書きを設定すると点灯します。
- (13)連続：連続印刷で2枚以上の設定をすると点灯します。
- (14)固定幅：文字幅を固定幅に設定すると点灯します。
- (15)カード：本体裏側のカード挿入口にカードをセットしてある場合に点灯します。

2.5 試しに使ってみましょう

付属の乾電池およびインクリボン・テープカセット9mm幅をセットして、**ON/OFF**キーを押します。

2

各種メモリーの初期化を行う画面表示を行った後入力画面となります。

例1) LM-310

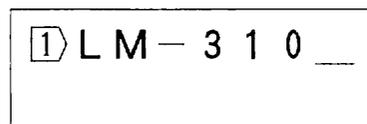
(1) **A/あ・ア**キーを押します。

(2) **L** **M** **印刷** **3** **1** **0**

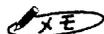
(3) **印刷**キーを押します。

(4) ハサミボタンを押して、テープを切り離します。

(5) テープを取り出します。



それでは次頁で、文字サイズを大きくしてみましょう。



イ. 初期状態では入力文字高さは3mmとなっています。

画面右側の文字高さ(特殊・2mm・3mm・4mm・6mm)をしめすインジケータは、これから入力する文字の高さを表します。

ロ. 乾電池を使用せずアダプタで使用した場合に、一端アダプタを外し、次に使用する際にも各種メモリー初期化が行われ、全登録メモリー初期化が表示されます。

2.5 試しに使ってみましょう

例2) 6 mm高さ文字で〔LM-310〕

前頁で入力した内容を文字高さ修正で行うこともできます(43参照)が、ここでは再入力してみましょう。

(1) 前回の入力内容を全て消します。

機能 キーを押した後 **削除** キーを押します。

これから入力する文字の高さを選びます。

(2) **機能** を押した後、**1あ**を押します。

(3) **確定** キーを押します。

(4) **前候補** → **前候補** を押して6 mmの表示画面を出します。

(5) **確定** を押すと右側のインジケータの6 mmの所に表示が出ます。

(6) **L** **M** **長音** **3** **1** **0** と入力します。

(7) **印刷**

入力文字高さ
◆設定？

1) ◆設定 6 mm



1) LM-310 _

3. 文字の入力

3. 1 文字の大きさを決める

3. 1. 1 文字サイズとテープ・チューブサイズの 組み合わせ

文字サイズは、文字高さを5種類、標準・半角・倍角の設定で3種類用意されています。

6mm 4mm 3mm 2mm " " はんかク 標準 倍角
6mm 4mm 3mm 2mm 特殊 半角 標準 倍角

各文字高さに対して、半角・標準・倍角から文字幅を設定できます。(除く、特殊小文字)

半角・倍角 \ 文字高さ	6mm	4mm	3mm	2mm	特殊
標準	可				可
半角	可 (漢字は不可)				不可
倍角	可				不可



文字高さの名称のミリ表示は、文字高さの目安としての数字です。
実際の文字高さは、文字によって若干異なります。

文字の大きさは、行単位、文字単位で設定することができますが、印刷するテープの幅やチューブによって設定できる組み合わせが異なります。

印刷できる組み合わせは次の通りです。

印刷行数	文字高さの組合せ	テープ幅			チューブ
		12mm	9mm	5mm	全サイズ
1行	6mm	○	○	×	×
	4mm	○	○	×	×
	3mm	○	○	○	○
	2mm	○	○	○	○
	特殊	○	○	○	○
2行	4mm + 2mm	○	○	×	×
	3mm + 3mm	○	○	×	×
	3mm + 2mm	○	○	×	×
	2mm + 2mm	○	○	×	×
	特殊 + 特殊	○	○	○	○
3行	特殊 + 特殊 + 特殊	○	○	×	×
4行	特殊 + 特殊 + 特殊 + 特殊	○	○	×	×

上記以外の設定はできません。(サイズオーバーのエラー表示がでます。)
設定方法は次頁以降をご覧ください。

3.1 文字の大きさを決める

文字の高さは、5種類用意されています。ただし、テープ幅5mmの場合とチューブの場合は使用できる文字高さが制限されます。

1) 9、12mm幅テープの場合

6 mm文字 AB123あいゴシック文字

4 mm文字 ABC123あいうゴシック文字

3 mm文字 ABCD123あいうゴシック文字

2 mm文字 ABCD123あいうえゴシック文字

特殊小文字 (16ドット) ABCDEFGHIJKLMNOP

2) 5 mm幅テープ、チューブの場合

1) の6 mm文字・4 mm文字は使用できません。



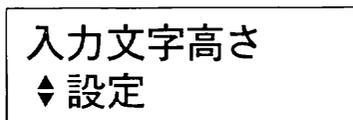
- イ. 特殊小文字は、他のサイズの文字と混在させることはできません。
- ロ. 文字の高さは、目安としての数値であり、文字により若干高さが異なります。
特殊小文字の文字高さは約1.3mmです。

3. 1 文字の大きさを決める

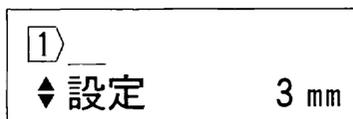
3. 1. 2 文字サイズの設定(1) 文字高さを決める

文字を入力する前に文字の高さを決めましょう。すでに入力した文字のサイズ変更については、「4. 入力した文字の編集」を参照ください。

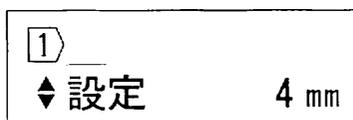
① **機能** キーを押した後、^{文字高さ}「あ」キーを押して、文字サイズ機能を選択します。



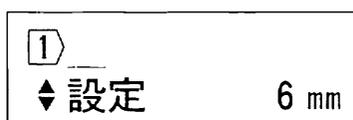
② **確定** キーを押して機能を確定します。



③ **前候補** キーを押すごとに画面表示が順次、「4 mm」「6 mm」「特殊」「2 mm」「4 mm」と切り替わります。



④ 入力したい文字高さが表示されましたら、**確定** キーを押して文字高さを確定します。
(右図の場合 6 mm)



⑤ 以上の操作によって選定した文字高さによる入力画面となります。



3



- イ. 特殊小文字を選択し入力すると、以降、他の文字サイズは全文を消去するまで入力できません。
- ロ. 2～6 mm文字を選択し入力すると、以降、全文が消去されるまで、特殊の選択項目は表示されなくなり、選択できません。
- ハ. 始めて本機をお使いになる場合や、設定内容が初期化された場合は3 mm文字が入力する文字高さとなっています。
- ニ. **前候補** キーの代わりに **次候補** キーを押すと表示内容の順序が逆向きに切り替わります。

3. 1 文字の大きさを決める

3. 1. 3 文字サイズの設定(2) 半角・倍角の設定

文字高さの選択とともに半角・倍角を設定することができます。



本機での半角は横 $\frac{1}{2}$ 倍角、
倍角は横1.5倍角となっています。(横：テープ長さ方向)

3

【半角を設定する】

- ① **機能** キーを押した後^{半・倍角}**2**キーを押して、半角・倍角機能を選択します。
- ② **確定** キーを押して機能を確定します。
- ③ **次候補** キーを押して半角を選択します。
- ④ **確定** キーを押して半角を確定します。

半角・倍角
◆設定？

①__
◆設定 標準

①__
◆設定 半角



- 半角の印刷ができるのは英数字・記号・ひらがな・カタカナで、漢字での印刷は全角（標準）サイズになります。
- 特殊小文字の印刷では全角（標準）サイズのみになります。

3.1 文字の大きさを決める

【倍角を設定する】

① **機能** キーを押した後、^{半・倍角}**2** キーを押して半角・倍角機能を選択します。

② **確定** キーを押して機能を確定します。

③ **前候補**  キーを押して倍角を選択します。

④ **確定** キーを押して倍角を確定します。

半角・倍角
◆設定？

① **標準**
◆設定

① **倍角**
◆設定

半角
標準
倍角
▶

3

3.2 入力方法を選ぶ

3.2.1 選べる入力方法

レタツインの文字の入力には、次の4種類の方法が用意されています。使いやすい入力方法を選んで、スピーディな入力作業が行えます。

- (1) ローマ字入力
- (2) かな入力
- (3) 英数字入力
- (4) 漢字J I Sコード入力

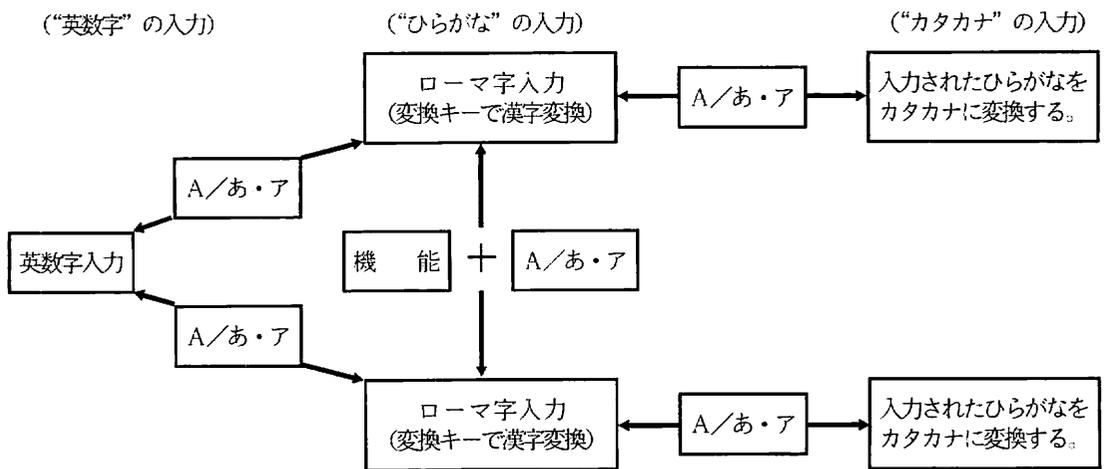
日本語入力は、ローマ字入力か、かな入力のいずれかの方法で行います。

難しい漢字等、漢字変換で印刷したい文字が画面に出てこない場合は、漢字J I Sコード入力を利用します。

線番等、英数字のみの入力には英数字入力を使用します。

それぞれの入力モードの切り替えは次の関係になっています。

詳しくは次頁以降をご覧ください。



- イ. 入力方法は、工場出荷時には「ローマ字入力」になっています。
- ロ. 英数字入力及びローマ字/かな入力の切り換えは変換画面に入力がない状態で行います。
- ハ. 漢字J I Sコード入力は、P. 111を参照して下さい。

3.2 入力方法を選ぶ

3.2.2 入力方法の切り替え方 (英数字／かな／ローマ字入力)

1) 英数字入力を選ぶ

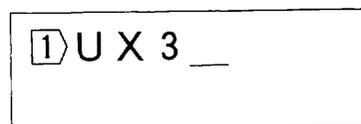
かな入力を選んでいても、ローマ字入力を選んでいる場合も、**A/あ・ア**キーのワンタッチで英数字入力モードに切り替わります。

例：U X 3

- ① **A/あ・ア**キーを押し左側の英数字インジケータを表示させる。



- ② **U** **X** **3** と入力する。



3



イ. 英数字はダイレクトに確定画面に入力されています。

ロ. ひらがなの入力画面へ戻る時は、再度 **A/あ・ア**キーを押すと、左側のひらがなインジケータに表示が変わります。

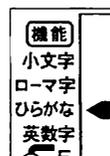
3.2 入力方法を選ぶ

2) かな入力を選ぶ

本機は初期状態では、自動的にローマ字入力を選択されています。

「ローマ字」のマークインジケータが点灯していたら、

- ① **機能** キーを押し、つづいて **A/あ・ア** キーを押してください。

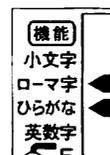


3) ローマ字入力を選ぶ

「ローマ字」のインジケータが点灯していることを確認してください。

もし、「ローマ字」が点灯していなかったら、

- ① **機能** キーを押し、つづいて **A/あ・ア** キーを押してください。



メモ

- イ. ローマ字入力では、文字キー左上の英数字記号、かな入力では右下のかな50音などが有効になり、ひらがなを変換画面に表示させます。
- ロ. ローマ字入力では、句点『。』は **れ** キー、読点『、』は **る** キーで入力できます。
かな入力を選択しているとき **機能** ⇒ **る** 読点「、」の入力となります。
機能 ⇒ **れ** 句点「。」の入力となります。
- ハ. ピリオド『.』、カンマ『,』の入力については英数字入力の状態で行います。

3.3 文字を入力する

3.3.1 ひらがなを入力する

例の順序に従ってキーを押してください。又、ローマ字入力、かな入力共左側インジケータの表示を確認して入力して下さい。

例：がってん

①ローマ字入力：

がってん

3

かな入力：

②正しく入力できましたら、キーを押して
確定します。

がってん

※押すキーを間違えた場合は、キーを押して削除してください。

例：

が

キーを押す。

が

改めて を押します。

が

3.3 文字を入力する

3.3.2 カタカナを入力する

例の順序に従ってキーを押して下さい。

例：アース

3

①ローマ字入力：

かな入力：

①
あーす

②ひらがなをカタカナに切り替える為に キーを押して下さい。

①
アース

③正しく入力できましたら、 キーを押して下さい。

① アース

 X

押すキーを間違えた場合は、 キーを押して削除して下さい。

例：

①
あーし

①
あー

を押します。

上記②の操作に戻ります。

①
あーす

 X

イ. カタカナに切り替えて、以降、確定せずに継続して入力すると、カタカナで変換画面に表示されていきます。

ロ. ひらがなに戻るときは、再度 キーを押すとひらがなに切り替わります。

3.3 文字を入力する

3.3.3 漢字を入力する

ひらがなを漢字へ変換して入力する方法です。
例の順序に従ってキーを押してください。

1) 熟語の漢字変換

例：電器

①ローマ字入力：D E N N K I

かな入力：て っ ん き

② **変換** キーを押すと熟語の候補が表示されます。

③ つづけてキーを押すと次の候補が表示されます。「電器」が表示されるまで **変換** キーを押します。

④ 正しく変換されたら **確定** キーを押し、確定画面に熟語を移動させます。

① _____
でんき _____

① _____
電気 _____

① _____
電器 _____

① 電器 _____

3



- イ. **変換** キーで欲しい候補を行きすぎたときは、**前候補** キーでもとに戻ることができます。
また、**変換** キーのかわりに **次候補** キーで先の候補を表示させることができます。
- ロ. 変換画面に入力できるひらがなの数は、最大20文字までです。

3.3 文字を入力する

2) 漢字1文字の変換(単漢字変換)

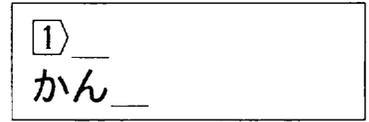
1文字の漢字を変換させる入力の方法です。
例の順序に従ってキーを押してください。

例：管

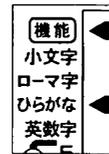
3

①ローマ字入力：**K A N N**

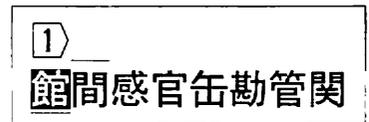
かな入力：**か ん**



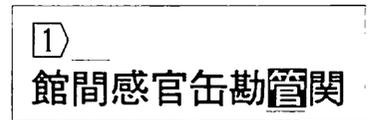
②単漢字変換を行うため、**機能** キーを押します。機能と表示されます。



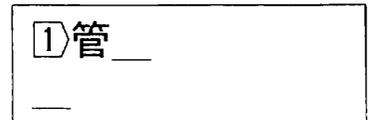
③ **変換** キーを押すと単漢字の候補が表示されます。



④ **読み伸し** キーをつづけて6回押し、「管」を反転表示させます。



⑤ **確定** キーを押し、確定画面に単漢字を移動させます。



イ. **機能** + **変換** で候補が8文字まで表示れます。**読み伸し** キーを押し、選択したい文字の所までカーソルを持っていき、反転させたあと、**確定** キーを押します。

最初の8文字までに必要な文字がない場合、**次候補** キーで次頁画面を表示させ、9文字目以降の候補を表示させることができます。

ロ. カーソルを戻す場合は**読み短縮** キーで、左へカーソル(反転表示)が移動します。

ハ. 前頁画面に戻す場合は、**前候補** キーを使います。

3.3 文字を入力する

3) 読みの短縮と伸ばし

熟語変換の際に、変換の対象となる部分を短くしたり伸ばしたりして、欲しい言葉を探すことができます。

例：千回

① **せん****か****い**と入力します。

①
せんかい

② **変換**キーを押すと「旋回」が表示されます。

①
旋回

③ **読み短縮**◀キーを2回押すと、「線かい」が表示されます。

▼**次候補**キーを「千かい」が表示されるまで、繰り返し押します。

①
千かい

④ 「千かい」が出たところで、**確定**キーを押します。「千」という文字が上の列に上がり、右図の表示画面となります。

① 千
かい

⑤ 続いて「かい」を変換する為に、**変換**キーを押します。「回」が表示されるまで▼**次候補**キーを繰り返し押します。

① 千
回

⑥ 「回」が出たところで、**確定**キーを押します。

① 千回

※ ▶**読み伸し**キーで、③から②の状態に戻せます。



イ. 読み短縮と読み伸ばしを行って、本機に内蔵されている辞書に無い読みになったり入力している文字の範囲をこえる操作となった場合は「!該当辞書無し」の表示をして、最初の変換表示に戻ります。

3

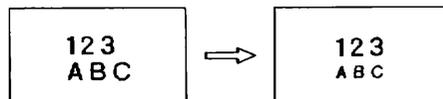
4. 入力した文字の編集

4.1 文字の大きさを変える

4.1.1 文字サイズの変更（文字高さを変える）

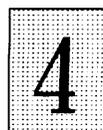
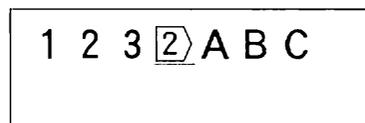
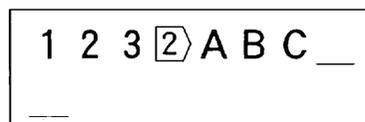
1) 行一括で変更する

例：3 mm文字の並び



右図の2行目「ABC」を行一括で変更し2 mm文字にする。

①サイズを変えたい行の行頭マークへカーソルを移動させるために、**読み短縮**◀キーを押します。



② **機能**キーを押した後、^{文字高さ}**あ**キーを押し、**次候補**あるいは**前候補**キーで文字高さ修正を選択し、**確定**キーを押します。

入力文字高さ
◆修正？

1 2 3 ② ABC
◆一括修正 3 mm

③ **次候補**キーを押して文字高さ2 mmを表示させます。

1 2 3 ② ABC
◆一括修正 2 mm

④ **確定**キーを押して文字高さを確定し、修正を終了します。

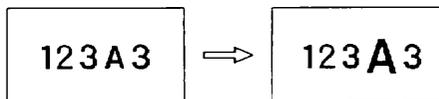


- イ. 入力が全くないときに行頭マーク①にカーソルを移動しても操作できません。
- ロ. ピッチ入力(65頁参照)しているときに、ピッチマークにカーソルを移動し、同様の操作をすると、ピッチマーク間の全ての文字高さが変更されます。
- ハ. 特殊小文字の場合は文字サイズが変更できませんので、この操作はできません。

4.1 文字の大きさを変える

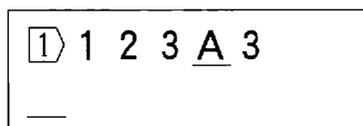
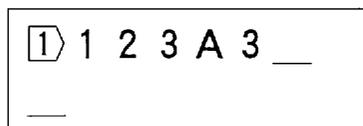
2) 1文字の変更

例：4 mm文字の並び

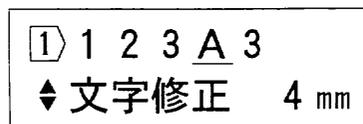
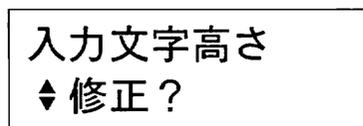


右図の「A」だけを6 mm文字にする。

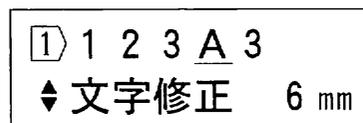
- ①サイズを変えたい文字へカーソルを移動させるために、**読み短縮**◀キーを押し、Aの文字までカーソルを移動させます。



- ② **機能**キーを押した後、^{文字高さ}**あ**キーを押し、**前候補**▲あるいは**次候補**▼キーで文字高さ修正を選択し、**確定**キーを押します。



- ③ **前候補**▲キーあるいは**次候補**▼キーを押し、文字高さ6 mmを表示させます。



- ④ **確定**キーを押して、文字高さを確定し、修正を終了します。



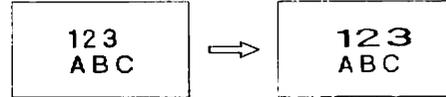
イ. 修正したい箇所へは、**読み伸し**▶**読み短縮**◀でカーソルを移動させ、文字高さの変更は**前候補**▲**次候補**▼で数値を上下させてください。

4.1 文字の大きさを変える

4.1.2 文字サイズの変更(半角・倍角の変更)

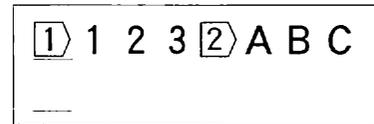
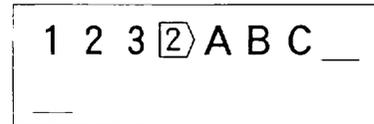
1) 行一括で修正する

例：標準文字の並び

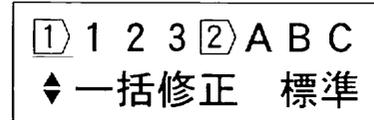
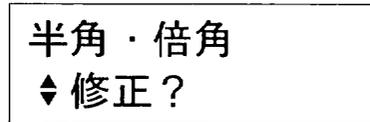


右図の1行目「1 2 3」を倍角にする。

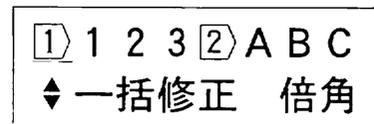
①サイズを変えたい行の行頭マーク①へカーソルを移動させるために、**読み短縮**キーを押します。



② **機能** キーを押した後、^{半・倍角}**2** キーを押す、**前候補** あるいは **次候補** キーで半角・倍角修正を選択し、**確定** キーを押します。



③ **前候補** キーを押して「倍角」を表示させます。

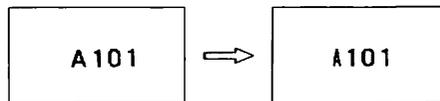


④ **確定** キーを押して「倍角」を確定し、修正を終了します。

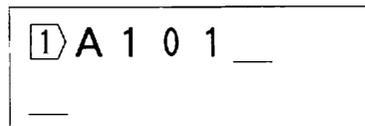
4.1 文字の大きさを変える

2) 1文字の倍角・半角の変更

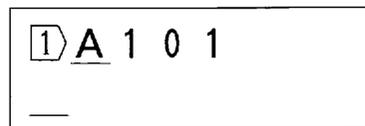
例：標準文字の並び



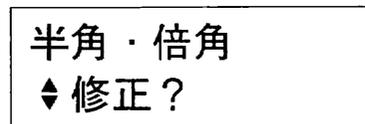
右図の「A」のみを半角にする。



①サイズを変えたい文字へカーソルを移動させるために、**読み短縮** キーを押し、Aの文字までカーソルを移動させます。



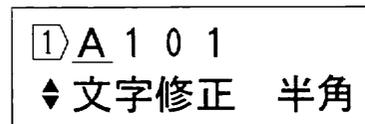
② **機能** キーを押した後 **半・倍角** **2** キーを押し、**前候補** あるいは **次候補** キーで半角・倍角修正を選択し、**確定** キーを押します。



③ **次候補** キーを押し、「半角」を表示させます。



④ **確定** キーを押して「半角」を確定し、修正を終了します。



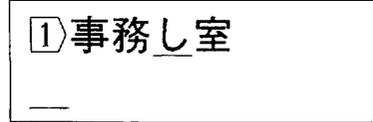
4.2 文字の削除・挿入

1) 入力した文字を削除する

確定画面上の、削除したい文字へカーソルを移動させます。

例：「事務し室」の「し」を消す

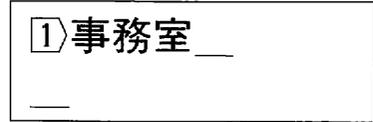
- ① **読み短縮**◀ キーを押し、カーソルを「し」へ移動させます。



- ② **削除** キーを押し、「し」を削除します。



- ③ **読み伸し** キーを押し、もとの入力位置へカーソルを戻します。



例：「事務室」全文を消去します。

- ① 全文削除を行うため、**機能** キーを押します。左側インジケータの「機能」のマークが点灯します。



- ② **削除** キーを押すと、全文削除されます。



4

4.2 文字の削除・挿入

2) 文字を挿入する

確定画面上で、挿入したい位置の後ろの文字へカーソルを移動させて入力します。

例：「事務室」を「事務管理室」とします。

- ① **読み短縮** キーを押し、「室」へカーソルを移動します。

① 事務室
_

- ② 「管理」を入力します。

ローマ字入力：**K A N N R I**

かな入力：**か ん り**

① 事務室
かんり_

- ③ **変換** キーを押し漢字に変換します。

① 事務室
管理_

- ④ 正しく変換されたら **確定** キーを押し、確定画面に移動させます。

① 事務管理室
_

- ⑤ 入力続ける場合は、**読み伸し** キーを押し、もとの入力位置へカーソルを戻します。

① 事務管理室_

4.3 2行に入力する

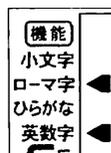
9、12mm幅テープを使用すると、特殊小文字以外の文字高さは2行まで入力することができます。

1) 入力文字高さ3mmで入力した場合

例：1行目に「ABC」、2行目に「123」を入力します。

ABC
123

① **A/あ・ア** キーを押し、英字入力状態にします。左側のインジケータの「英数字」のマークが点灯します。



② **A** **B** **C** と入力します。

① ABC _

③ **機能** キーを押し、**改ブロック** キーを押し改行します。

① ABC ② _

④ **1** **2** **3** と入力します。

ABC ② 1 2 3 _



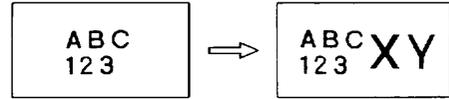
- イ. 3mm文字で入力を行い改行すると、2行目も3mm文字となります。
- ロ. 4mm文字で入力を行い改行した場合は、2行目は2mm文字しか入力できませんので、改行前に入力文字高さを2mmに設定してから入力してください。
- ハ. 6mm文字で入力を行い改行しようとする、2行目の入力はできません。
- ニ. 1行目に何も無い状態で2行目の入力に移る場合は、空行のサイズを決めるために、 空白をひとつ入力して改行してください。

4.4 2行書きと1行書きを混在させる

改ブロック

2行書きの文字並びの後に、1行書き（テープ中心位置）の文字をつづけて入力することができます。

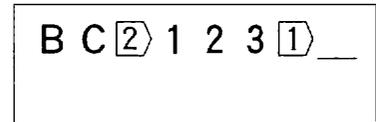
例：前頁の列につづけて、6 mmの文字
「XY」を入力します。



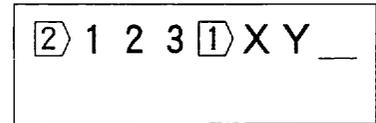
- ①入力文字高さを6 mmに設定します。
(29頁参照)

改行

- ②改ブロックキーを押します。2行目の文字列の後に①マークが表示されます。
これで改ブロックの入力状態になります。



- ③X Yを入力します。



- ④印刷キーを押して印刷します。
上図サンプルの様に出力されます。



イ、この例で、再度2行書きの入力を行う場合は、2行入力が可能な入力文字高さを選び、再度改ブロックで改ブロックを行い、行頭マークを表示させて入力を開始して下さい。

4.5 あらかじめラベルの長さを決める

あらかじめ「印字長」を設定することで、決まった長さのラベルを作成することができます。

「印字長」とは、左ハーフカットから右ハサミカット（連続ではハーフカット間）までの長さです。

例：5 cm (50mm)

- ① **機能** キーを押した後、^{配置}**3** キーを押し、「印字長？」が表示されるまで、**次候補** キーを押します。

配置
◆ 印字長？

- ② **確定** キーを押して機能を確定します。この時、初期値は「自動」に設定されています。

印字長
◆ 自動

- ③ 数字キーで**5** **0** と入力し **確定** キーを押します。又はラベルの長さ 5 cm (50mm) が表示されるまで **前候補** キーを押します。設定したい長さが表示されます。

印字長
◆ 50mm

- ④ **確定** キーを押して確定すると、入力画面に戻ります。この時、下側のラインインジケータの印字長マークが点灯します。

—		
文字間	印字長	枠囲み

4

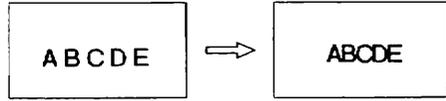


- イ. 長さを短く変更したい時は、③で **次候補** キーを使い数字を小さくします。
- ロ. **前候補**、**次候補** キーを押し続けると10mm単位で数値を上下させることができます。
- ハ. 印字長を設定している場合は、文字高さ、半・倍角、配置、書式等の設定変更を行うと、「印字長オーバー」のエラー表示がされる場合があります。
- ニ. ビッチ文書を宣言しているときは、「印字長？」の表示はされません。
- ホ. 設定できる印字長は10mmから300mmまでです。
- ヘ. 作成されるラベルは、長さに若干のズレが生じますが、ご了承ください。
- ト. ③で **削除** キーを押すと、自動の表示になります。

4.6 文字間の広さを選ぶ

「文字間」の広さとしては、次の4種類が用意されており、文字サイズによらず共通です。

呼び名	文字間距離
広い	約3mm
標準	約1mm
狭い	約0.5mm
密着	0mm



例：密着を選ぶ



① **機能** キーを押した後、^{配置}**3** キーを押します。「文字間？」が表示されます。

①通常の場合

_
_

配置
 ◆文字間？

②ピッチ入力の宣言がなされているとき

_
_

配置
 ◆ピッチ長？

②ピッチ入力の宣言がなされている場合は、「ピッチ長？」が表示されますので、**次候補** キーを押して、「文字間？」を表示させます。

配置
 ◆文字間？

③ **確定** キーを押して機能を確定します。この時、初期値は「標準」に設定されています。

文字間
 ◆ 標準

④「密着」が表示されるまで、**次候補** キーを押します。

文字間
 ◆ 広い

文字間
 ◆ 密着

⑤ **確定** キーを押して確定すると、入力画面に戻ります。

_
_

_
_

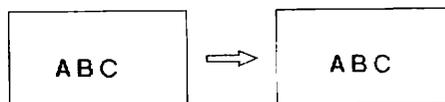
この時、下側のラインインジケータの文字間マークが点灯します。

—
 文字間 印字長 枠囲み

4.7 ラベル左右の余白の設定

ラベルの両端の、文字が無い余白の長さを調整することができます。

例：左右の余白長さを5mmにする。



[左マージンを変更する]

① **機能** キーを押した後、^{余白}**4元** キーを押します。

「左マージン？」が表示されたら、**確定** キーを押し、確定します。

余白
◆左マージン？

②初期値の2mmが表示されますので、数字キー**5**を押し入力します。又は、5mmと表示されるまで**前候補** キーを押します。

左マージン
◆ 2 mm

左マージン
◆ 5 mm

③ **確定** キーを押します。
「左マージン」が5mmに設定され、入力画面に戻ります。

1 _
_

4



イ. 長さを小さい値に変更したいときは **次候補** キーを押してください。

ロ. 左右マージンの設定範囲は2mmから30mmまでです。

ハ. **前候補**、**次候補** キーは押し続けると、5mm単位で数値を上下することができます。

ニ. ピッチ文書には適用しません。

ホ. 数値のある画面で **削除** キーを押すと、2mm表示になります。

4.7 ラベル左右の余白の設定

[右マージンを変更する]

- ① **機能** キーを押した後、**余白** **4元** キーを押します。「左マージン？」が表示されます。

余白
◆左マージン？

- ② **次候補** キーあるいは **前候補** キーを押して「右マージン？」を表示させ、**確定** キーを押して、確定します。

余白
◆右マージン？

- ③ 初期値の 2 mm が表示されますので、数字キー **5** を押し入れます。又は 5 mm と表示されるまで **前候補** キーを押します。

右マージン
◆ 2 mm

右マージン
◆ 5 mm

- ④ **確定** キーを押します。
「右マージン」が 5 mm に設定され、入力画面に戻ります。

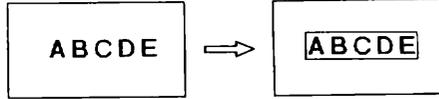
① _
_



- イ. 長さを小さい値に変更したいときは **次候補** キーを押してください。
ロ. 左右マージンの設定範囲は 2 mm から 30 mm までです。
ハ. **前候補**、**次候補** キーは押し続けると、5 mm 単位で数値を上下することができます。
ニ. ピッチ文書には適用しません。
ホ. 数値のある画面で **削除** キーを押すと、2 mm 表示になります。

4.8 枠をつける

例：枠をつける



① **機能** キーを押した後、^{書式}**5お** キーを押すと、「枠囲み？」が表示されます。

書式
◆ 枠囲み？

② **確定** キーを押し「枠囲み」の機能を選定します。この時、初期値は「無」に設定されています。

枠囲み
◆ 無

4

③ **次候補** キーを押し、「有」が表示されたら、**確定** キーを押します。「枠囲み」が設定されました。

枠囲み
◆ 有

④ 設定を終了し、入力画面に戻ります。この時、下側のラインインジケータの枠囲みマークが点灯しています。

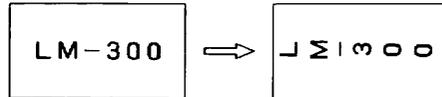
		—
文字間	印字長	枠囲み



- イ. 枠を取り消すときは、③でやはり **前候補** キー（あるいは **次候補** キー）を押し、表示を「無」にして、**確定** キーで変更することができます。
- ロ. 枠をつけると、「印字長」が長くなります。

4.9 縦書きにする

例：LM-310



① **機能** キーを押した後、**書式** **5お** キーを押すと、「枠囲み？」が表示されます。

書式
◆ 枠囲み？

② **次候補** キーを押し「縦書き？」を表示させ、**確定** キーを押して選定します。この時、初期値は「無」に設定されています。「無」は横書きの状態です。

書式
◆ 縦書き？

縦書き
◆ 無

③ **次候補** キーを押し、「有」が表示されたら、**確定** キーを押します。これで「縦書き」が設定されました。

縦書き
◆ 有

④ 設定を終了し、入力画面に戻ります。この時、下側のラインインジケータの縦書きマークが点灯しています。

—	
枠 囲 み	縦 書 き

※上記の印字例は、英数字入力によるものです。「ㄥΣ-∞-0」とするには、英数字入力以外で**数**を入力確定して下さい。

メモ

- イ。「縦書き」を「横書き」に戻すときは、③で**次候補**キー(あるいは**前候補**キー)を押し、表示を「無」にして、**確定**キーで変更することができます。
- ロ。「縦書き」にすると、倍角・半角に入力された文字は字形が変わりますので、ご注意ください。
- ハ。文字幅は文字高さに固定となります。

5. 印刷する

5.1 レイアウトの確認

印刷の前に印刷イメージを表示させ、文字の大きさの違いや、ラベル長さなどを確認する事ができます。

例：6 mm文字で「QE」、3 mm文字で「12」を入力し、連続2枚・連番2枚で設定した。

- ① **機能**を押した後、^{イメージ}**イメージ**キーを押すと、右の画面が表示され、続いてイメージ画面の表示になります。

文書左側から画面が流れていきます。

- ② 続いて右の画面が表示され、自動的に入力画面に戻ります。

① QE 1 2 _
_

イメージ表示
印字長 19 mm

QE 1 2 |

5

連続 2枚
連番 2枚



- イ. 途中で取りやめる時は **終了/取消** キーを押して下さい。
ロ. 印字長表示については、目安ですので若干実際の長さとは異なる場合があります。
ハ. 上下の枠は表示されない場合があります。

5.2 印刷と切り離し

①印刷ボタンを押す。



5

印刷中 . . .

印刷中は画面に「印刷中…」と表示されます。

②「印刷中…」から入力画面に戻ったら、はさみボタンを押してテープ、チューブを切り離します。



イ. 印刷後、テープ、チューブを取り出す時は必ずはさみボタンを押してから、取り出して下さい。

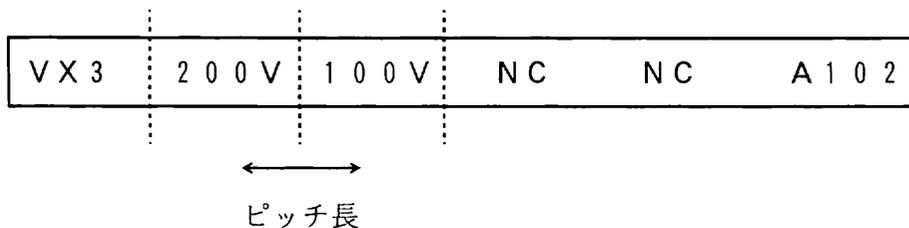
ハーフカットのみでテープ、チューブを引っ張りださない様にして下さい。

6. 応用操作

6.1 ピッチ印刷を行う

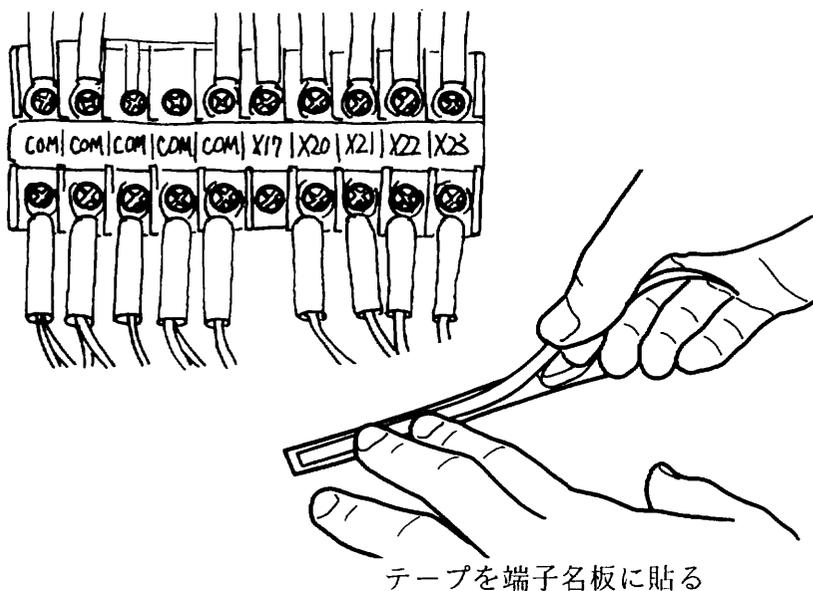
6.1.1 ピッチ印刷とは

端子台など、所定のピッチで文字列を配置したい場合に用います。



ピッチ長毎に文字列のほぼ中心が配置されます。

端子台の記名板に用いる場合は、端子間ピッチをピッチ長として設定(次頁参照)し、文字の入力の前に **P** マークを入力(65頁参照)して文字入力を行って下さい。



6



端子記名板にご使用の場合は、1度の印刷を15ピッチ以内でご使用ください。それ以上ですと、ピッチズレが生じる場合があります。

6.1 ピッチ印刷を行う

6.1.2 ピッチ長の設定

例：8 mm

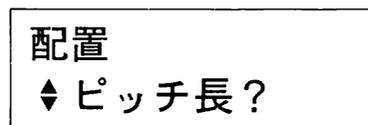
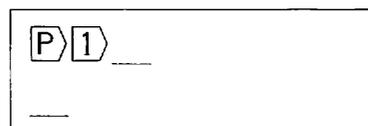
①右図の初期画面から、まずピッチ入力
の宣言を行う為、**読み短縮** キーを押して、カー
ソルを行頭マークへ移動します。



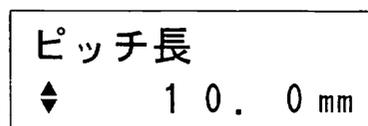
② **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押
します。行頭マークの前にピッチマークが
入り、ピッチ長の設定が可能になります。



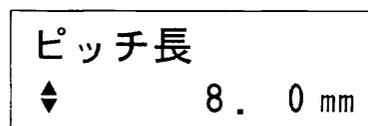
③ **機能** キーを押した後、^{配置}**3** を押します。
ピッチ長の表示画面が出ます。



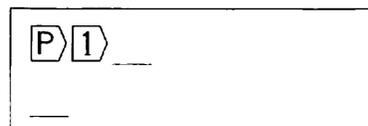
④ **確定** キーを押すと、ピッチ長の初期設
定が表示されます。



⑤ 数字キーで**8****0** を押して、8.0を入力しま
す。又は **次候補** キーを繰り返し押して、
8 mmを表示させます。



⑥ **確定** キーを押して設定を終了すると、
入力画面に戻ります。



メモ

- イ. ピッチ長を大きくする場合は **前候補** キーを押して下さい。
- ロ. ピッチ長の設定範囲は 6 mm から 50 mm まで 0.1 mm 単位で設定できます。但し、目安としての数値ですので、端子台とズレが生じた場合は、数値を上下して下さい。
- ハ. **次候補**、**前候補** キーは押し続けると 1 mm 単位で数値を上下することができます。
- ニ. ピッチ長を設定している場合は、サイズ、半・倍角、配置、書式等の設定変更を行うと「!ピッチオーバー」の表示がされる場合があります。

6.1 ピッチ印刷を行う

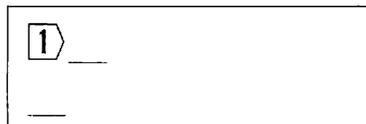
6.1.3 ピッチ入力の方法

例1：8 mmピッチで3個の文字列を配置（文字サイズ3 mm半角）

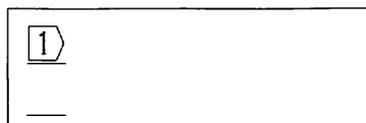
①入力文字サイズを3 mmに設定（29頁参照）

②半角入力に設定（30頁参照）

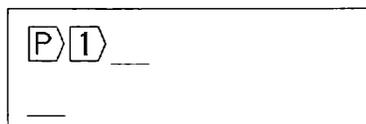
③英数字入力を選択（33頁参照）



④ **読み短縮** キーを押して、カーソルを行頭マークへ移動します。

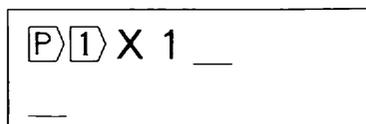


⑤ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押します。

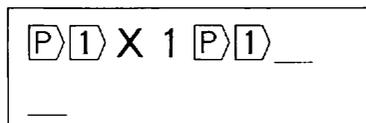


⑥ここで前頁の説明に従ってピッチ長を8 mmに設定し、文字の入力にはいります。

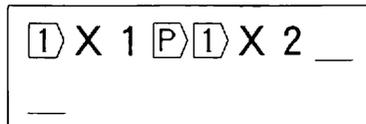
⑦ **X** **1** と入力します。



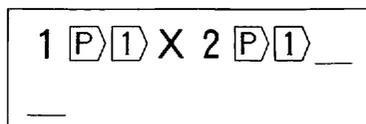
⑧ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押します。



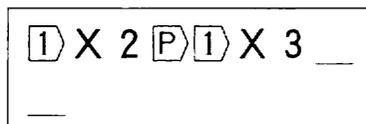
⑨ **X** **2** と入力します。



⑩ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押します。



⑪ **X** **3** と入力します。



⑫ **印刷** キーを押して、印刷します。



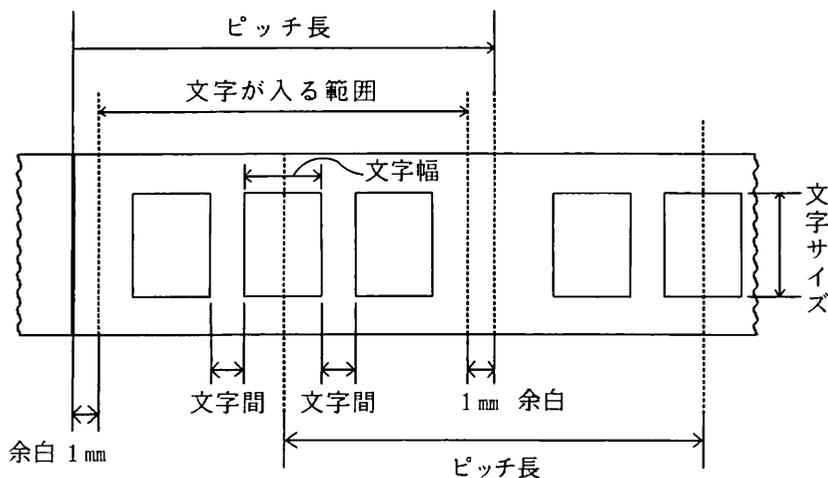
6.1 ピッチ印刷を行う



オプション

- イ. 10mm未満のピッチ印刷は **機能** キーを押した後、**9** で連続カットを「無」に設定してから行って下さい（設定「有」で行うと、8mmで指定しても10mmピッチになります）。
- ロ. 設定したピッチ長に対して、入力できる文字数と文字サイズが限られます。
入力中にエラー表示がでた場合は、文字サイズや文字間を変更したり、半角の入力設定を行ってください。
- ハ. **P** マークにつづく行頭マークは削除できません。
- ニ. **P** マークを削除すると、削除した **P** マークにつづいていた文書はひとつ前の **P** マークにしたがった文字となります。したがって、入力エラーになる場合がありますので、極力 **P** につづく文字を削除してから **P** を削除してください。
- ホ. ピッチ長を大きくする場合は **前候補** キーを押して下さい。又は数字キーで入力して下さい。
- ヘ. ピッチ長の設定範囲は6mmから50mmまで0.1mm単位で設定できます。但し、目安としての数値ですので、端子台とズレが生じた場合は、数値を上下して下さい。
- ト. **次候補**、**前候補** キーを押し続けると1mm単位で上下します。

(ピッチ内の文字、位置の関係)



- ① 文字間について (52頁参照)
- ② 文字高さについて (29頁参照)
- ③ 文字幅は各文字によって異なります。
入力可能な文字数については、次頁を参考にして下さい。
- ④ 文字が入る範囲は、チューブアタッチメント使用時は余白部分が2mmになります。

6.1 ピッチ印刷を行う

テープ使用でピッチ指定時の入力可能文字数の例

英字“W”の場合

文字間 ピッチ長	3 mm 文字半角		3 mm 文字標準		4 mm 文字半角	
	狭 い	標 準	狭 い	標 準	狭 い	標 準
8.0	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	1文字 W W	2文字 WW WW	2文字 WW WW
8.5	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	2文字 WW WW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW
9.0	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	2文字 WW WW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW
9.5	4文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	2文字 WW WW	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW
10.0	4文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	2文字 WW WW	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW
10.5	5文字 WWWWW WWWWW	4文字 WWWWW WWWWW	2文字 WW WW	2文字 WW WW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW
11.0	5文字 WWWWW WWWWW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW
11.5	5文字 WWWWW WWWWW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW	2文字 WW WW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW
12.0	5文字 WWWWW WWWWW	4文字 WWWWW WWWWW	3文字 WWW WWW	3文字 WWW WWW	4文字 WWWWW WWWWW	4文字 WWW WWW

6

上記はプロポーショナル（初期選定）での値です。

文字サイズの設定は29頁、半角文字の設定は30頁、文字間の設定は52頁を参照してください。

6.2 同じラベルを何枚も作る (連続印刷)

枚数を指定して1度に複数のラベルの作成ができます。

例：LM-310Tを5枚作成

① **機能** キーを押した後、^{連続・連番} **6は** キーを押します。

連続・連番
◆連続印刷？

② **確定** キーを押した後、数字キー **5** を押して入力します。又は、**前候補** で必要枚数が表示されるまで押し、**確定** キーを押します。

連続印刷
◆ 5枚

③自動的に入力画面に戻ります。
この時、下側のラインインジケータの連続マークが点灯します。

LM-310T__
__

—	—
連続	固定

④ **機能** キーを押した後、^{オプション} **9** キーを押します。

オプション
◆連続カット？

⑤ **確定** キーを押した後、**前候補** で表示を連続カット「有」にします。

連続カット
◆ 有

⑥ **確定** キーで入力画面に戻ります。



- イ. 枚数を減らす場合は②で、**次候補** キーを押して下さい。又は数字キーで入力して下さい。
- ロ. 連続印刷を設定した場合は、印刷後もその内容が残りますので、以降1枚作成に戻る場合は、設定枚数を戻すことをお忘れなく。②の画面で **削除** キーで1枚表示になります。
- ハ. 枚数指定は20枚までです。
- ニ. 自動的にハーフカットをしながら印刷が連続しますので、テープの通路や本体左に物がおかれテープ走行の邪魔をしないようお願いいたします。

6.3 連番でラベルを作る (連番印刷)

入力文書中の数字の末尾(文書末尾に近い1箇所)を1ずつ増やし、複数のラベルを作成することができます。

例：「数字1」「数字2」「数字3」という3枚のラベルを作る

①「数字1」を入力します。

①数字1

② **機能** キーを押した後、**連続・連番** キーを押し、**次候補** キーで連番印刷を選択し **確定** キーを押します。

連続・連番
◆連番印刷?

③ 数字キー **3** を押して入力します。又は、**前候補** キーで必要な枚数を表示させ、**確定** キーを押します。

連番印刷
◆ 3枚

④ 下側ラインインジケータの連続マークが点灯します。

—
連続 固定
連番 編集

⑤ オプション設定で連続カットを「有」にします。(前頁④～⑥参照)。

⑥ **印刷** キーを押します。印刷が開始されます。

印字終了後、入力画面中の数字は次の印刷に備えて最後に印刷したラベルの数字を1つ大きくした数字となります。

①数字4



- イ. 枚数を減らす場合は③で、**次候補** キーを押して下さい。又は数字キーで入力してください。
- ロ. 連番印刷を設定した場合は、印刷後もその内容が残りますので、以降1枚作成に戻る場合は、設定枚数を戻すことをお忘れなく。
- ハ. 連番の枚数指定は20枚までです。
- ニ. 自動的にハーフカットをしながら印刷が連続しますので、テープの通路や本体左に物がおかれテープ走行の邪魔をしないようお願いいたします。
- ホ. 桁上がりが発生するときはあらかじめ確定文書にて数字左に「0」か「(空白)」を入力しておいてご使用ください。(例：01)
- ヘ. ③の画面で **削除** キーを押すと、1枚の表示になります。

6.4 内蔵されている記号を呼び出す

分類別に内蔵してある色々な記号を呼び出して使うことができます。

その種類は

- 筆記体
 - (特殊な) 数字
 - 上付き、下付き文字
 - ギリシャ文字
 - 電設記号 ①, ②, ③
 - 英字丸囲い
 - その他 (ヴ、カ、ケ、よく使う旧字60文字)
 - 単位
 - 事務記号
- (108~110頁の記号一覧参照)

例: 1 0 の後に km を呼び出す

① 1 0 _
_

① **機能** キーを押した後、^{記号} **8** キーを押し、
次候補 キーを3回押して単位の項目を選びます。

① 1 0 _
◆ **単位?**

② **確定** キーを押すと単位が表示されます。**読み短縮** 又は **読み伸し** キーで必要な単位まで移動します。

① 1 0 _
mm cm km **km** cm² m² km²

③ **確定** キーを押し、呼び出しを終了します。

① 1 0 _
mm cm **km** cm² m² km²

① 1 0 km _
_

6

6.5 よく使う言葉を登録して使う

変換が面倒な言葉や良く使う記号の並びなどを登録しておいて、入力の際に呼び出して使う事ができます。

登録が可能な文字数 = 5文字まで
登録できる数 = 30

6.5.1 語句を登録する

例：「制御の模式図」の「模式図」を登録する

①すでに入力された右画面の状態から

①制御の模式図

② **読み短縮** キーで登録する語句の先頭へカーソルを移動します。

①制御の**模**式図

③ **機能** キーを押した後、**語句登録** キーを押し、**次候補** キーで登録を表示させ、**確定** キーを押します。

語句登録
◆登録？

④開始位置を指定します。

カーソルが「模」の位置で **確定** キーを押します。

①制御の**模**式図
登録開始位置？

⑤次に終了位置を指定します。

読み伸し キーを「図」の位置にカーソルが移動するまで押し、**確定** キーを押します。

①制御の**模式**図
登録終了位置？

⑥登録番号が表示されますので、**前候補** キー又は **次候補** キーで1~30の番号を選び、**確定** キーを押すと、登録が終了し、入力画面に戻ります。

登録番号？
1.

①制御の**模式**図

6

6.5 よく使う言葉を登録して使う



- イ. すでに登録がなされている場合、例えば上記⑥で番号の右側に登録されている言葉が表示された場合は、そのまま登録すると上書きになり、始めにあった言葉は消去されます。上書きしない場合は、番号右側がブランクのものを選んで確定してください。
- ロ. **P**マーク、行頭マーク (**1**、**2**) をまたいだ登録はできません。

6.5.2 登録してある語句を呼出す

例：Aの前に呼び出した語句を挿入する

1 制御の A _

6

- ① 語句を挿入したい場所の直後にカーソルを移動します。

1 制御の A

- ② **機能** キーを押した後、**語句登録** キーを押し、右の画面が表示されたら、**確定** キーを押します。

語句登録
◆ 呼出し？

- ③ **前候補**、**次候補** キーで、1から30の登録画面から必要な語句を表示させます。

登録番号？
3. 模式図

- ④ **確定** キーを押すと確定画面に表示されます。

1 制御の模式図 A



- イ. 文字のサイズ、半倍角等は呼び出す時点の入力設定に従います。

6.5 よく使う言葉を登録して使う

6.5.3 登録した語句を削除する

- ① **機能** キーを押した後、^{語句登録}**7** キーを押し、
次候補 キーを押して、削除を表示させます。

語句登録
◆ 削除？

- ② **確定** キーを押します。

登録削除
1. 断面積

- ③ **前候補**、**次候補** キーで、1から30の登録画面から削除したい語句を表示させます。

- ④ **確定** キーを押すと削除され、入力画面に戻ります。

6

6.5 よく使う言葉を登録して使う

6.5.4 登録した語句をすべて削除する

- ① **機能** キーを押した後、^{語句登録}**7** キーを押します。

語句登録
◆呼出し？

- ② **次候補** キーを押し、初期化の表示を出し
確定 キーを押します。

語句登録
◆初期化？

- ③右図の様に表示されますので、**確定** キーを押します。

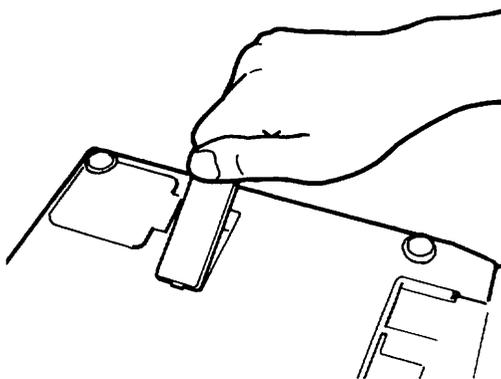
登録初期化
実行？

- ④登録されている語句をすべて消去して、入力画面に戻ります。

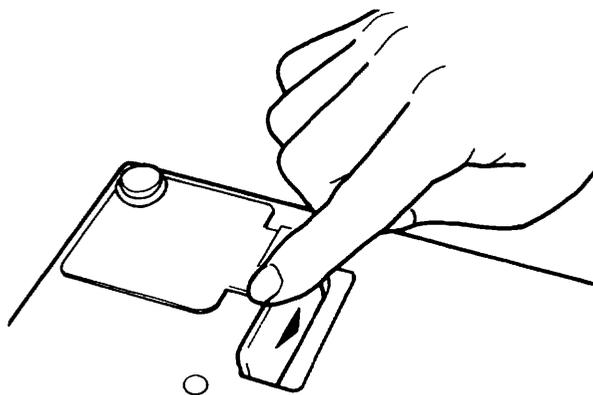
6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

6.6.1 メモリーカードの入れ方

①本機を裏返しメモリーカードカバーを開けます。



②メモリーカードの表面を手前にして、奥の壁に沿わせて突き当たるまで差し込みます。



6

お願い

- イ. メモリーカードには付属のリチウム電池がありますので、あらかじめ電池を装着してから上記の差し込みを行ってください。
- ロ. 電池交換に用いるドライバーが付属していますので使用後大切に保管してください。
- ハ. 以降メモリーカードは差し込んだままお使い下さい。
メモリーカードの電池は、3年に一度交換して下さい。
交換方法は80頁の説明に従って行って下さい。

6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

6.6.2 メモリーカードの初期化

メモリーカードはご購入後、まず「初期化」の操作を行ってください。
メモリーカードに、本機で使用するためのフォーマットを書き込みます。
「初期化」は、すでにデータがある場合には、データの全てを消去するように働きます。

① 本体にメモリーカードをセットしたら、本機の **ON/OFF** キーを押して電源を入れます。

② **機能** キーを押した後、^{カード}**0** キーを押します。

登録初期化
実行？

③ **確定** キーを押します。

1

これで初期化が終了し入力画面に戻ります。



メモリーカード LM-MR300は、レタツインシリーズ機全てに共通ですが、LM-300で登録した文書は、LM-310Tでは使用出来ません。再度、初期化することにより使用可能です。

6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

6.6.3 文書の登録

登録したい、入力確定された文書が画面にある状態でおこないます。

例：文書「ABC」を登録します

- ① **機能** キーを押した後、^{カード}0_は キーを押し、登録が表示されるまで **次候補** キーを押します。
- ② **確定** キーを押した後、登録番号が「1」と表示され、**確定** キーを押すと、入力画面にもどり、登録が終了します。
これで登録番号1のファイルに「ABC」が登録保存されました。

① ABC _
_

文書登録
◆登録？

登録番号 1
登録無

登録できるファイル数は50ヶ用意されています。すでに登録されている場合は、②のところで、**次候補**、**前候補** キーを使って「登録無」の表示が出る登録番号のところで確定して登録してください。

6

例：登録番号1に「ABC」が登録されている場合に、入力確定文書「123」を登録番号2へ登録保存する

- ① **機能** キーを押した後、^{カード}0_は キーを押し、登録が表示されるまで **次候補** キーを押します。
- ② **確定** キーを押した後、登録番号「1」の文書が表示されます。**次候補** キーを押し、登録番号の「2」を表示します。
- ③ **確定** キーを押します。登録番号「2」に登録が終了し、入力画面に戻ります。

文書登録
◆登録？

登録番号 1
① ABC

登録番号 2
登録無



イ. 登録内容のある画面で確定し登録すると、前の内容は消去され新しい文書が上書きされて登録されます。

6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

6.6.4 登録文書の呼出し

例を使って説明します。

- ① **機能** キーを押した後、^{カード}**0**キーを押し、「**呼出し?**」が表示されるまで **次候補** キーを押します。

文書登録
呼出し?

- ② **確定** キーを押すと、登録番号「1」の文書が表示されます。**次候補** キーを押し、呼び出したい文書を表示します。

登録番号 1
① 中央区日本橋箱

- ③ 呼び出す文書が現れたら、**確定** キーを押します。

登録番号 3
① R O T O O 3 2

これで呼び出されました。

① R O T O O 3 2
—

「配置」「書式」については、呼び出した文書が登録された時点の内容におきかわります。

文書を探すとき、**前候補** キーで登録番号を②と逆に変化させられます。

メモ

- イ. 登録文書を呼出すと、その時点の入力中文書が上書きされて無くなります。
- ロ. テープカセットをセットした状態で入力した登録文書は、チューブカセット、アタッチメントをセットした状態では使用出来ません。
チューブカセットで入力した登録文書は、チューブカセットで、テープカセットで入力した登録文書はテープカセットで使用して下さい。

6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

6.6.5 登録文書の削除

① **機能** キーを押した後、^{カード}0_ほ キーを押し、「◆呼出し?」が表示されるまで **次候補** キーを押します。

文書登録
◆呼出し?

② **確定** キーを押すと、登録番号「1」の文書が表示されます。**次候補** キーを押して削除したい文書を探します。

登録番号 1
①中央区日本橋箱

③削除したい文書が現れたら、**確定** キーを押します。

登録番号 2
①電磁弁回路のス

これで、登録番号「2」の文書が削除されました。

登録番号「2」は「登録無」となり、新しい文書が登録可能な空きファイルとなります。

6



イ. メモリーカードの内容をすべて消去したい場合は、①で **前候補** キーを押し、「◆初期化?」を表示させ、**確定** キーを押してください。続けて **確定** キーを押して、登録初期化を実行してください。

6.6 メモリーカード(別売品)の使い方

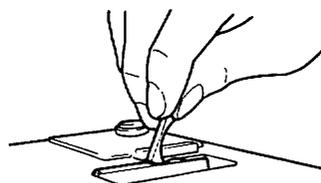
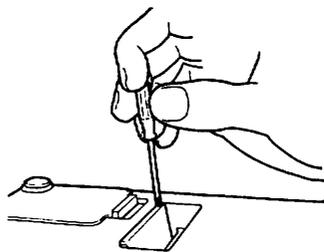
6.6.6 メモリーカードの電池交換

準備として、小型の+ドライバー（メモリーカードに付属していたもの）と市販の「CR2025」1個を用意してください。

- ①必ず本機の電源をONにして、表示が点灯した状態で行ってください。
※オプション設定でオートパワーOFFを「無」にして行います。(104頁参照)
- ②本体を裏返し、メモリーカードカバーを開ける。

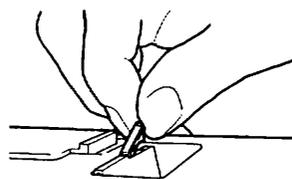
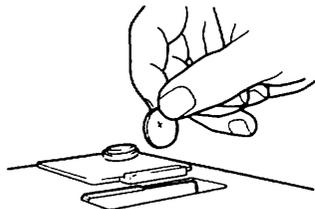
③+ドライバーでネジをとります。

④電池のフタをつまみとります。



⑤電池をとり出し、新しい電池を差し込みます。

⑥フタを電池を押し出すようにしながら、ツメからさしこみます。



⑦ネジ止めして終了です。

⚠ 注 意



●リチウム電池（ボタン型電池）はお子様の手が届かないところに保管してください。オプション品のメモリーカードには、リチウム電池が使われています。万一誤ってリチウム電池を飲み込んでしまった時は、すぐに医師の指示を受けてください。

なお、終了後、オートパワーOFFを「有」にして下さい。(104頁参照)

お願い

イ. 電池寿命は、3年が目安となります。電池不足になってくると、カード操作時に「カード電池不足」が表示されますので、上記に従って電池を交換してください。

6.7 複写、貼付をする

文書中の文字列を他の場所へ複写することができます。

例： X 1 0 COM COM COM

ピッチ入力で作ってみます。

- ①入力文字サイズを3mmに設定（29頁参照）。
- ②半角入力に設定（30頁参照）。
- ③英数字入力に設定（33頁参照）。
- ④ピッチ長さを10mmに設定（64頁参照）。

⑤ X 1 0 と入力します。

⑥ **機能** キーを押した後、^{ピッチ} **鉛** を押し、
C O M と入力します。

⑦カーソルを **P** のマークの下に **読み短縮** キーで移動します。

⑧ **機能** キーを押した後、^{複写} **む** キーを押します。

⑨カーソルを **読み伸し** キーで複写位置へ移動し、**機能** キーを押した後、^{貼付} **め** キーを押します。

（この操作でCOMが複写されています。）

⑩繰り返し⑦～⑨の操作を行います。

⑪ **印刷** キーを押して、印刷します。

P **1** _
_

P **1** X 1 0 _
_

1 0 **P** **1** C O M _

1 0 **P** **1** C O M

1 0 **P** **1** C O M _

6

メモ

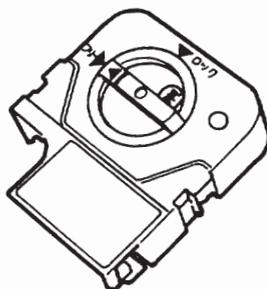
- イ. 複写開始位置は **P** マークか、**1** マークの上のみです。
- ロ. 複写位置はカーソルで指定します。
- ハ. ピッチ長は複写されるピッチに従います（ピッチ印刷時は **P** マークから複写して下さい）。
- ニ. 複写出来る最大文字列は50文字です。

6.8 オプションチューブアタッチメントの使い方

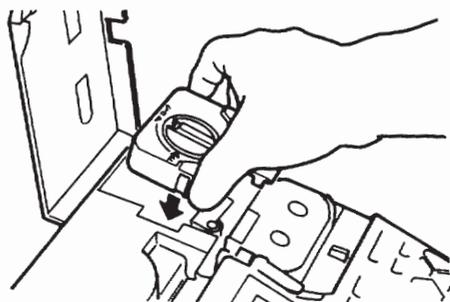
6.8.1 オプションチューブアタッチメントのセット方法

チューブアタッチメントは、一般市販チューブ、マックス丸チューブご使用時、機械にセットして、ご使用下さい。

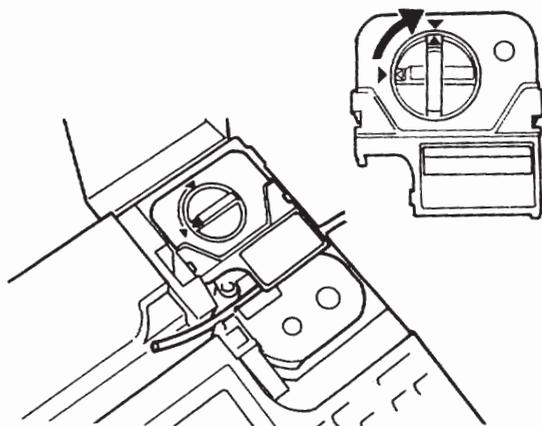
- ①アタッチメントが、フリー状態になっている事を確認して下さい。
ロック状態だと、機械にセット出来ません。



- ②図の様に機械に真上から軽く押してセットして下さい。

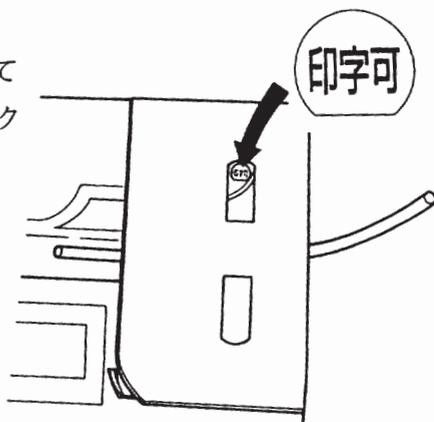


- ③カセットをセットしたら、横からチューブを差し込みカッター部（赤の部品）から、30mmくらい引出し、ツマミ部をロック位置迄、→印方向に回転しロックして下さい。



- ④カセットカバーを締めてカセットカバーの上部のアクリル窓から●グリーンを確認して下さい。

(●グリーンが見えない時は、ロックされていないのでカセットカバーを開けて、ロック状態にして下さい。)



6.8 オプションチューブアタッチメントの使い方

6.8.2 アタッチメントを使用してチューブ印刷

チューブアタッチメント、チューブをセットした後、カセットカバーの窓から
① グリーンのシールを確認して、

①電源ONします。右図の設定画面になります。

チューブ選択
◆MAXチューブ

② キーまたは キーを押すと、
右図の設定画面表示になります。

チューブ選択
◆一般チューブ

③ご使用チューブに合わせて キーを押
して下さい。チューブ径選択画面に変わります。

チューブ径
◆φ4.2

④MAXチューブを選択して キー又は
 キーを押すと、チューブ径がφ3.6、
φ3.2、φ5.2、φ4.2が表示されます。

⑤ご使用のチューブ径に合わせて キー
を押します。右図の表示に変わります。
(一般チューブは、φ3.2とφ3.6の2種類の
選択になります。)

① __
__

6



- ①チューブアタッチメント装着時は、入力した後、カセットフタを開けると、電源がOFFされます。電源ONすると、チューブ選択画面に戻ります。
- ②途中で、チューブ選択、又はチューブ径変更する時は、電源をOFFにして、最初から選択操作を行って下さい(入力した文字は、消えません)。
- ③一般チューブは15℃以上でご使用下さい。
MAXチューブは10℃以上でご使用下さい。
- ④アタッチメント使用で低温時、チューブが指定長さより、短くなったり、印字が薄くなった時は、低温モードで印刷して下さい。

6.8 オプションチューブアタッチメントの使い方

低温モード操作

① **機能** キーを押して、^{オプション}**9** キーを押します。

オプション
◆連続カット

② **次候補** キーを「低温モード？」が表示されるまで押して **確定** キーを押して下さい。

オプション
◆低温モード

低温モード
◆ 無

③ **次候補** キーを押して、「有」の表示で **確定** キーを押して下さい。

低温モード
◆ 有

①



イ. 低温モード印刷は通常、アタッチメント使用より印字速度が遅くなります。

6.8 オプションチューブアタッチメントの使い方

6.8.3 アタッチメントを使用してチューブを作る

COM X10 X15

ピッチ印刷を使って、φ3.6の同じ長さ（例：20mm）のチューブをハーフカットを入れて作る。

チューブアタッチメントをセットしφ3.6を選択します（83頁参照）。

チューブアタッチメントをセットしますと初期設定値は、

- ①文字高さ 3mm
- ②ピッチ長 20mm
- ③ピッチカット 有

が自動的に設定されます。

P1

- ① C 0 M を入力します。

P1 COM

6

- ② 機能 キーを押した後、^{ピッチ} 鍵 キーを押して X 1 0 を入力します。

OM P1 X 1 0

- ③ 機能 キーを押した後、^{ピッチ} 鍵 キーを押して X 1 5 を入力します。

1 0 P1 X 1 5

- ④ 印刷 キーを押して、印刷します。



イ. テープカセットをセット状態で入力された文書が有りますと、

テープ入力文書
全文削除 実行?

が表示されます。確定 キーで削除して下さい。

ロ. チューブカセットをセット状態での入力文書は、アタッチメントに交換しても印字出来ます。

7. レタツインを使いこなす

7.1 ピッチ印刷の応用例

7.1.1 印字長が同じで内容が異なるラベルを同時に作る

①ピッチ長の設定をします。(64頁参照)

最大50mmまで

②オプションの設定へ入ります。

機能 キーを押してから、^{オプション}**9** キーを押します。オプション設定画面となります。

オプション
◆連続カット?

③ピッチカット?が表示されるまで

▼次候補

キーを押します。

オプション
◆ピッチカット?

④表示されたら、**確定** キーを押します。

⑤ **▼次候補** 又は **前候補▲** キーを押し、「有」を表示させます。

ピッチカット
◆ 無

⑥ **確定** キーを押します。

ピッチカット
◆ 有

⑦入力画面に戻り、設定を終了します。

⑧ピッチ入力を行う。(65頁参照)



イ、ピッチカットを行う場合は10mm以上のピッチ長設定としてください。
ピッチカットを設定すると10mm未満のピッチ長を設定していても、10mmの間隔でハーフカットを行いますので、印刷にズレが生じます。

7

7.1 ピッチ印刷の応用例

7.1.2 連番のピッチ印刷を行う

ピッチ印刷と連番の機能を応用して、連番でピッチ印刷を行えます。
但し、ピッチ入力は1個の[P]マークで行ってください。

例：

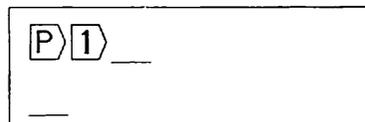
UX 1	UX 2	UX 3
------	------	------

①入力文字サイズを3mmに設定(29頁参照)

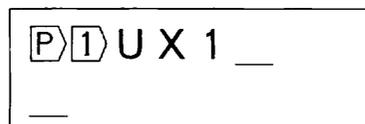
②半角入力に設定(30頁参照)

③英数字入力を選択(33頁参照)

④ピッチ長を設定(64頁参照)



⑤[U][X][1]と入力します。



⑥連番設定を3枚に設定(69頁参照)し、

印 刷

 キーを押して印刷します。

7



イ. オプション設定の中にある「ピッチカット」を「有」、「連続カット」を「有」にして行わないようにしてください。

「ピッチカット無」でこの操作を行うようにしてください。

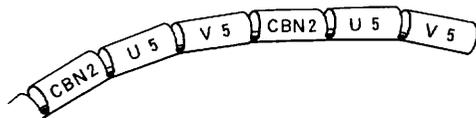
ロ. 連番でないピッチ部分と同時に入力して、連番部分をつなげる印刷は行えません。

7. 1 ピッチ印刷の応用例

7. 1. 3 ピッチ印刷機能でチューブを作る。 (カセットチューブ、詰め換えチューブ使用で)

ピッチ印刷機能を使って、同じ長さ(例:18mm)のチューブを、ハーフカットを入れて、2本ずつ作る事が出来ます。

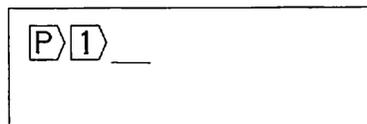
例:



チューブカセットをセットしますと、初期設定値は、

- ①文字高さ 3mm
- ②ピッチ長 20mm
- ③ピッチカット 有

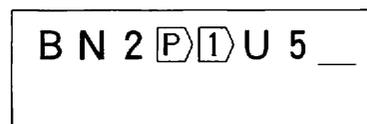
が自動的に設定されます。



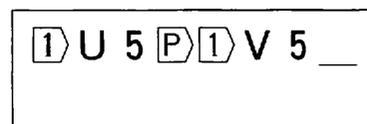
- ①連続印字2枚を設定(68頁参照)。
- ②ピッチ長を20mm → 18mmに設定します(64頁参照)。
- ③ **C** **B** **N** **2** を入力します。



- ④ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押して、**U** **5** を入力します。



- ⑤ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**鉛** キーを押して、**V** **5** を入力します。



- ⑥ **印刷** キーを押して、印刷します。

7



イ. 内容の異なるチューブを2個以上作る時は、ピッチ印刷機能を使用すると、連続して入力が出来、余白の無駄を少なくチューブ印刷が出来ます。

7.1 ピッチ印刷の応用例

7.1.4 ピッチ印刷で2ケタの縦印字を行う

例

X 1
X 2
X 3

 ピッチ10mm
 テープ9mm

 ピッチ印刷機能を使って、2ケタ縦印字を行うことができます。
 入力順序の違いに注意して下さい。

- ①入力文字サイズ3mmに設定(29頁参照)
- ②英数字入力を選択(33頁参照)
- ③書式を縦書き「有」に設定(56頁参照)
- ④ピッチ長さ10mmに設定(64頁参照)
- ⑤ $\boxed{1}$ を入力します。

$\boxed{P}\boxed{1}$ __
__

- ⑥ $\boxed{\text{機能}}$ キーを押した後、 $\boxed{\text{改ブロック}}$ キーを押すと、右図の表示になります。

$\boxed{P}\boxed{1}$ 1 __
__

- ⑦ \boxed{X} を入力します。

$\boxed{P}\boxed{1}$ 1 $\boxed{2}$ __
__

- ⑧ $\boxed{\text{機能}}$ キーを押した後、 $\boxed{\text{ピッチ}}$ キーを押して、 $\boxed{2}$ を入力します。

$\boxed{P}\boxed{1}$ 1 $\boxed{2}$ X __
__

- ⑨ $\boxed{\text{機能}}$ キーを押した後、 $\boxed{\text{改ブロック}}$ キーを押して、 \boxed{X} を入力します。

$\boxed{1}$ 1 $\boxed{2}$ X $\boxed{P}\boxed{1}$ 2 __
__

- ⑩ $\boxed{\text{機能}}$ キーを押した後、 $\boxed{\text{ピッチ}}$ キーを押して、 $\boxed{3}$ を入力し $\boxed{\text{機能}}$ キーを押した後、 $\boxed{\text{改ブロック}}$ キーを押して \boxed{X} を入力します。

$\boxed{2}$ X $\boxed{P}\boxed{1}$ 2 $\boxed{2}$ X __
__

- ⑪ $\boxed{\text{印刷}}$ キーを押します。

$\boxed{2}$ X $\boxed{P}\boxed{1}$ 3 $\boxed{2}$ X __
__



イ. 縦印字は2ケタ印字迄です。

ロ. 縦印字で2ケタ、2行印字は出来ます。

例

X- X~ X∞
∞∞ ∞∞ ∞∞

 ピッチ指定後、 $\boxed{X}\boxed{1}$ を入力して $\boxed{\text{機能}}$ キーを押して $\boxed{\text{改ブロック}}$ キーを押して $\boxed{U}\boxed{0}$ を入力

X- X~ X∞
∞∞ ∞∞ ∞∞

 ピッチ指定後、 $\boxed{X}\boxed{2}$ を入力して $\boxed{\text{機能}}$ キーを押して $\boxed{\text{改ブロック}}$ キーを押して $\boxed{U}\boxed{0}$ を入力

 の繰り返しです。

(2行縦印字の時は、文字間の密着を選択すると、バランスが良くなります。)

ハ. 8mmピッチ指定の時は、連続カット「無」を選択して下さい。

7.1 ピッチ印刷の応用例

7.1.5 ピッチ印刷で2行印字を行う

例：

UX1	UX2	UX3
CBN	B6A	B6A

 ピッチ 8 mm
テープ 9 mm

- ①入力文字サイズ 3 mm に設定 (29頁参照)
- ②半角入力に設定 (30頁参照)
- ③英数字入力を選択 (33頁参照)
- ④ピッチ長 8 mm 設定 (64頁参照)

⑤ **機能** キーを押した後、^{オプション}**9** キーで連続
カット「無」に設定 (65頁参照)

P **1** _ _ _

⑥ **U** **X** **1** を入力します。

P **1** **U X 1** _ _
_ _ _

⑦ **機能** キーを押した後、**改ブロック** キー
を押して **C** **B** **N** を入力します。

U X 1 **2** **C B N** _ _

⑧ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**軸** キーを押し、
U **X** **2** を入力します。

B N **P** **1** **U X 2** _ _

⑨ **機能** キーを押した後、**改ブロック** キー
を押して **B** **6** **A** を入力します。

U X 2 **2** **B 6 A** _ _

⑩ **機能** キーを押した後、^{ピッチ}**軸** キーを押し、
U **X** **3** を入力し **機能** キーを押した
後、**改ブロック** キーを押して **B** **6** **B** を入
力します。

U X 3 **2** **B 6 B** _ _

⑪ **印刷** キーを押して印刷します。

7

7.1 ピッチ印刷の応用例

7.1.6 連番の入った端子銘板を作る

例：ピッチ 8 mm、テープ 9 mm

COM COM COM COM COM X17 X20 X21 X22 X23 X24 X25 X26 X27 X30

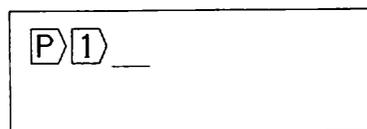
①入力文字サイズ 3 mm に設定 (29頁参照)

②半角入力に設定 (30頁参照)

③英数字入力を選択 (33頁参照)

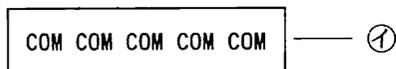
④ピッチ長さ 8 mm に設定 (64頁参照)

⑤ **C** **O** **M** を入力します。



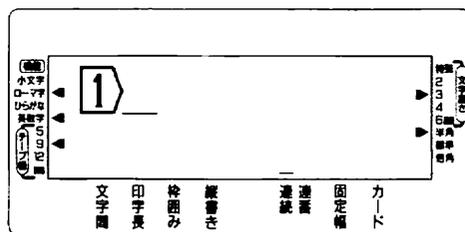
⑥ **機能** キーを押した後、^{連続・連番} **6** **は** キーを押して、
連続印字 5 枚を設定します。(68頁参照)

⑦ **印刷** キーを押して印刷します。



の印刷で一度カットして下さい。

⑧ **機能** キーを押し ^{全文削除} **削除** キーを押して
表示を全文クリアーして下さい。
インジケータの表示を見ると、
①、②、③、⑧ の設定状態が表示されます。
(設定状態はそのまま残っています。)



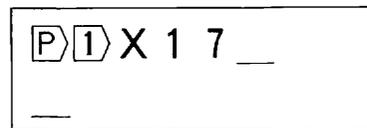
⑨ **機能** キーを押した後、^{連続・連番} **6** **は** キーを押して、
連続印字 5 枚を 1 枚に設定して下さい。
(68頁参照)

インジケータの連続の表示が消えます。

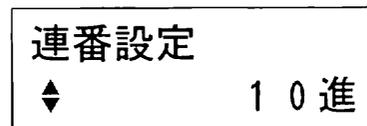


7.1 ピッチ印刷の応用例

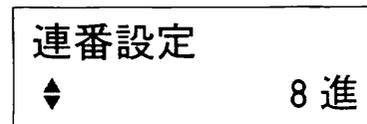
- ⑩ **読み短縮** キーをカーソルを **1** に移動し **機能** キーを押した後、**ピッチ** キーを押して、**X17** **7** を入力します。



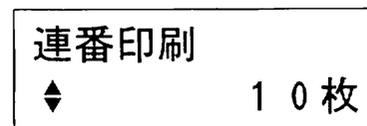
- ⑪ **機能** キーを押した後、**オプション** **9** キーを押し、**次候補** キーを押すと「連番設定?」が表示されます。**確定** キーを押します。



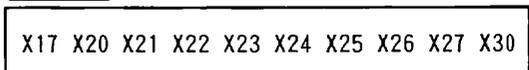
- ⑫ **次候補** キーを押すと「8進」が表示されます。**確定** キーを押します。8進数が設定されます。(102頁参照)



- ⑬ **機能** キーを押した後、**連続・連番** **6** キーを押し、連番を確定後、**前候補** キーで10枚を表示させ、**確定** キーを押します。(102頁参照)



- ⑭ **印刷** キーを押して、印刷します。



①の印刷シールと、⑭の印刷シールを2枚合わせて、ご使用下さい。



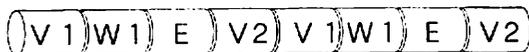
メモ

- イ. 連番でないピッチ部分と連続連番印字は一度に印字出来ません。
2枚に印刷して、合わせてご使用下さい。
- ロ. 連続連番機能を設定すると、カット機能が働きます。
端子銘板等にご使用の場合は、連続カット「無」に設定してご使用下さい。
- ハ. ピッチ印刷をあまり長く印刷すると、ピッチがズレてくる事があります。その時は、すこし短めに印刷して、ご使用下さい。

7.2 チューブアタッチメントを使った応用例

7.2.1 マーキングチューブをハーフカットを入れて2本ずつ作る。

例：



φ3.6のチューブで、20mmのチューブをハーフカットを入れて2本ずつ作る。

LM-310Tでは、20mmピッチの長さで、3文字入力の場合、最大24コ分の入力が一度に可能です。4文字ですと、最大19コ分の入力が一度に可能です。連続2枚指定すると、2コずつで3文字入力のマークチューブが一度に48コ、4文字入力ですと、一度に38コのマークチューブを作る事が出来ます。

チューブアタッチメントをセットし、φ3.6を選択します（83頁参照）。

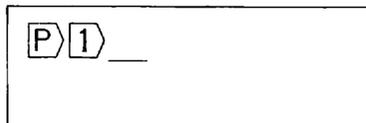
チューブアタッチメントをセットしますと、初期設定値は、

①文字高さ 3mm

②ピッチ長 20mm

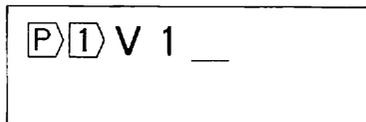
③ピッチカット 有

が自動的に設定されます。

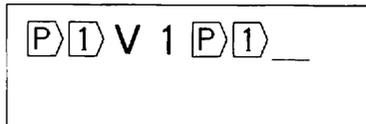


①連続設定2枚を設定します（68頁参照）。

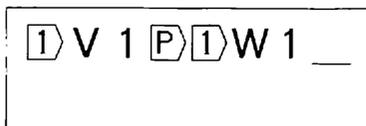
②[V] [1] キーを押して、入力します。



③ [機能] キーを押して ^{ピッチ} [1] キーを押します。



④[W] [1] キーを押して、入力します。



7

7.2 チューブタッチメントを使った応用例

- ⑤ **機能** キーを押して ^{ピッチ} **空** キーを押し、**E** キーを押して、入力します。

P 1 W 1 P 1 E _

- ⑥ **機能** キーを押して ^{ピッチ} **空** キーを押し、**V 2** キーを押して、入力します。

P 1 E P 1 V 2 _

入力をくり返して行くと記号を含め(120文字入力すると)「!文字数オーバー」の表示がされます。これ以上は入力出来ません。

- ⑦ **印刷** キーを押します。

連続設定を2枚にした時のマークチューブの印字は、入力したブロック単位で2ブロック出力されます。

(V 1) (W 1) (E) (V 2) (V 1) (W 1) (E) (V 2)
← 1ブロック ----- * ← 2ブロック ----- *

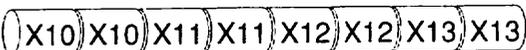
7

注意

- イ. 一般市販チューブは、チューブのヨレやクセが有りますと、印字ムラ、印字カスレの原因になります。ご注意下さい。
- ロ. 一般市販チューブで文字汚れが発生した場合、セロテープでチューブの表面を軽く押しつけ、剝がすと、汚れを取る事が出来ます。

7.2 チューブアタッチメントを使った応用例

7.2.2 連続、連番機能を使って、マーキングチューブを2本づつ作る。

例：

φ3.6で20mmのマーキングチューブを、連続・連番機能を使って、
ハーフカットを入れて2本づつ作る事が出来ます。

チューブアタッチメントをセットし、φ3.6を選択します（83頁参照）。

チューブアタッチメントをセットしますと、初期設定値は、

①文字高さ 3mm

②ピッチ長 20mm

③ピッチカット 有

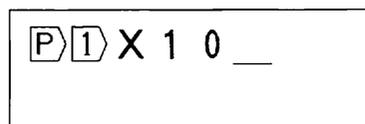
が自動的に設定されます。



①連番設定4枚を設定します（69頁参照）。

②連続印字2枚を設定します（68頁参照）。

③    キーを押して、入力します。



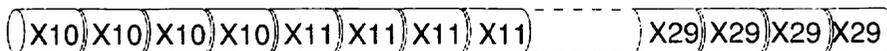
④  キーを押して印刷します。

7

7.2 チューブアタッチメントを使った応用例



- イ. 連続・連番機能を使った出力は、7.2.1の出力と違い、同じ印字のマークチューブが並んで出力されます。
- ロ. 20mmピッチ長さで、連番20枚（10進）、連続4枚の設定で



80コのチューブが一度に印字されます。

- ハ. ②の例で、20mmのチューブ80コですと、約160cmになります。
印刷の全長が1mを越える時は、1m単位で印字し、10秒前後、印刷を停止し、継続して印刷します。
継続印字は5回までで、5mを越える場合は印刷不可となります。

- ニ. 印刷停止中は

印字中 . . .
継続印刷処理中

の点滅表示になり
再印刷開始すると

継続印刷中 . . .

の表示に変わります。

7. 3 特殊小文字で小さなラベルに多行の文字を印刷する

表示の文字データを利用した特殊小文字では、約1.3mmの高さの文字で、多行の印刷を行えます。

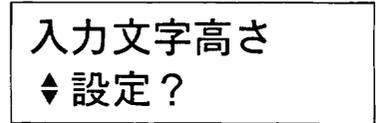
9、12mm幅テープ 4行まで

5mm幅テープおよびチューブ 2行

- ① **機能** キーを押した後、^{全文削除}**削除** キーを押し、入力データが無い状態にします。



- ② **機能** キーを押した後、^{文字高さ}**あ** キーを押すと、入力文字高さの設定表示となります。



- ③ **確定** キーを押すと、右図のような表示が出ます。

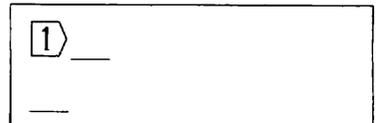


- ④ 「特殊」が表示されるまで、^{次候補}**▼** キーを押し、表示されたら、**確定** キーを押します。



- ⑤ 入力画面に戻り、設定を終了します。

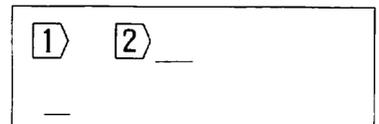
この時、右側のインジケータの「特殊」マークが点灯します。



これで特殊小文字の入力状態になりました。**改行** キーを使って3行目と4行目の行頭マーク (**3**、**4**) が現れるようになります。

注意

イ. 1行目から改行する際に、なにも入力しないで改行しますと、本機の性質上、1行目が過去に入力された文字のサイズで空欄となります。**罫** キーを用いて空白1文字を入力して改行して下さい。



ロ. 特殊小文字を設定し入力すると、以降全文が削除されるまで、〔文字高さの設定と変更〕、〔倍角・半角の設定と変更〕はできません。

7. 4 同じ内容で複数枚のラベルに連番を印刷する

連続印刷と連番印刷を組み合わせ、印刷を行う事ができます。

例：「X01」2枚、「X02」2枚、「X03」2枚を同時に印刷する

- ① **A/あ・ア** キーで英数字入力にして、**X****0****1** と入力します。

① X 0 1 _
_

- ② **機 能** キーを押した後、^{連続・連番}**6は** キーを押すと右画面の設定表示が出ますので、**確 定** キーを押します。

連続・連番
◆連続印刷？

- ③ **前候補** キー押して、「2枚」を表示し、**確 定** キーを押します。

連続印刷
◆ 2枚

- ④入力画面に戻ります。

① X 0 1 _
_

- ⑤次に、**機 能** キーを押した後、^{連続・連番}**6は** キーを押すと、再び②の表示が出ますので、**前候補** キーを押し「◆連番印刷？」を表示させ、**確 定** キーを押します。

連続・連番
◆連番印刷？

- ⑥ **前候補** キーを押して、「3枚」を表示し、**確 定** キーを押します。入力画面に戻り、設定を終了します。

連番印刷
◆ 3枚

- ⑦ **印 刷** キーを押して、印刷します。



7.5 8進数、16進数で連番印刷をする

連番印刷(69頁参照)の際に、10進数以外に8進数、16進数を選ぶことができます。

- ① **機能** キーを押した後、^{オプション}**9** キーを押して
右の画面を表示します。

オプション
◆連続カット？

- ② **次候補** キーを押して、「◆連番設定？」
を表示させます。

オプション
◆連番設定？

- ③ **確定** キーを押します。

連番設定
◆ 10進

- ④ **次候補** キーを押すと、「8進」が表示さ
れます。ここで **確定** キーを押すと、
8進数が選ばれます。

連番設定
◆ 8進

- ⑤ もう一度 **次候補** キーを押すと、「16進」
が表示され、ここで **確定** キーを押すと、
16進数が選ばれます。

連番設定
◆ 16進

- ⑥ 入力画面に戻り設定が終了します。

7

7.6 文字幅を固定する

2行印刷などで、上下の文字位置を合わせたいときなどは、固定文字幅を選んでください。

① **機能** キーを押した後、^{オプション}**9** キーを押して右の画面を表示します。

オプション
◆連続カット?

② **次候補** キーを押して、「◆文字幅?」を表示させます。

オプション
◆文字幅?

③ **確定** キーを押します。
初期値の設定が画面に表示されます。

文字幅
◆ 自動

④ **次候補** キーを押して、「固定」を表示させます。

文字幅
◆ 固定

⑤ **確定** キーを押すと、設定を終了して、入力画面に戻ります。
この時、下側マークインジケータの「固定幅」マークが点灯します。

	—	
連番	固定幅	カード

7



イ. 固定文字幅は、文字の形によらず一定の枠の中に文字をおさめることになりますので、見かけの文字間は設定内容より広がる形となります。

7.7 オートパワーオフの取消し

メモリーカードの電池交換の際に、オートパワーオフの機能（キー操作を約5分間何もしないと電源をオフする）を取り消すために行います。

- ① **機能** キーを押した後、^{オプション}**9** キーを押して右の画面を表示します。

オプション
◆連続カット？

- ② **前候補** キーで「◆パワーオフ？」を表示させます。

オプション
◆パワーオフ？

- ③ **確定** キーを押した後、**前候補** キーで無を表示させます。

パワーオフ
◆ 無

- ④ **確定** キーを押すと、入力画面に戻り、設定が終了します。

7

メモ

- イ. メモリーカードの電池交換が終わりましたら同様の操作で「有」に戻してから、お使い下さい。

7.8 キー音の取消し

- ① **機能** キーを押した後、^{オプション}**9** キーを押して右の画面を表示します。

オプション
◆連続カット?

- ② **前候補** キーで「◆キー音?」を表示させます。

オプション
◆キー音?

- ③ **確定** キーを押すと、初期値の「有」が表示されますので、**前候補** キーを押して「無」を表示させます。

キー音
◆ 無

- ④ **確定** キーを押すと、入力画面に戻り、設定が終了します。

7

7.9 JISコードによる漢字の入力方法

付録の漢字JISコード表を使って、漢字を呼び出す事ができます。

例：「章」を呼び出す

① **機能** キーを押した後、**!** キーを押して
「漢字JISコード」画面を表示します。

②ここで、付録の漢字JISコード表より、
呼び出す漢字のコードを入力します。

3 **E** **4** **F**

③ **確定** キーを押すと、「章」が画面に表
示されます。

④もう一度、**確定** を押して確定し、入力
画面に戻ります。

①

漢字JISコード

漢字JISコード
3 E 4 F

漢字JISコード
3 E 4 F 章

① 章

7

7.10 6と6、6.の切り換え

チューブの6、9の数字は区別しづらいことがありますが、LM-310Tでは6、9の下にアンダーバーや点を付けて容易に判別することができます。

- ① **機能** キーを押した後、^{オプション}**9**キーを押すと、右の画面に変わります。

オプション
◆印字長?

- ② **次候補** キーを押して右の選択画面にし、**確定** キーを押します。

オプション
◆6、9印字?

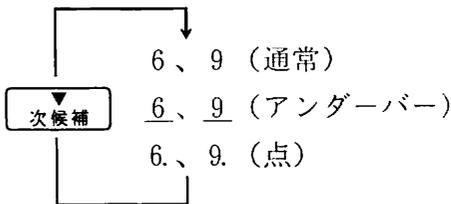
- ③ 通常の「6、9」が表示されます。

6、9印字
◆ 6、9

- ④ **次候補** キーを押してアンダーバーか点を選択して **確定** キーを押します。

6、9印字
◆ 6.、9.

7



以後、数字キー6、9を入力すると、文書表示や印刷される数字の下に点（アンダーバーが選択されたならアンダーバー）が入ります。

メモ

- イ. 既に入力された6、9もこれから入力される6、9にもアンダーバーや点がつきます。
逆に通常の6、9が選択された場合も同様に、全てが通常の6、9になります。
- ロ. 連番中の6、9も設定に従います

8. 付 録

8.1 ローマ字入力表

あ A	い I YI	う U WU	え E	お O	きゃ KYA	きい KYI	きゅ KYU	きえ KYE	きよ KYO
か KA	き KI	く KU	け KE	こ KO	しゃ SYA SHA	しい SYI	しゅ SYU SHU	しえ SYE SHE	しよ SYO SHO
さ SA	し SI	す SU	せ SE	そ SO	にゃ NYA	にい NYI	にゅ NYU	にえ NYE	によ NYO
た TA	ち TI	つ TU	て TE	と TO	ひゃ HYA	ひい HYI	ひゅ HYU	ひえ HYE	ひよ HYO
な NA	に NI	ぬ NU	ね NE	の NO	みゃ MYA	みい MYI	みゅ MYU	みえ MYE	みよ MYO
は HA	ひ HI	ふ HU FU	へ HE	ほ HO	りゃ RYA	りい RYI	りゅ RYU	りえ RYE	りよ RYO
ま MA	み MI	む MU	め ME	も MO	ぎゃ GYA	ぎい GYI	ぎゅ GYU	ぎえ GYE	ぎよ GYO
や YA		ゆ YU	い ^え YE	よ YO	ぢゃ DYA	ぢい DYI	ぢゅ DYU	ぢえ DYE	ぢよ DYO
ら RA	り RI	る RU	れ RE	ろ RO	でゃ DHA	でい DHI	でゅ DHU	でえ DHE	でよ DHO
わ WA	う ^い WI		う ^え WE	を WO	びゃ BYA	びい BYI	びゅ BYU	びえ BYE	びよ BYO
が GA	ぎ GI	ぐ GU	げ GE	ご GO	ぴゃ PYA	ぴい PYI	ぴゅ PYU	ぴえ PYE	ぴよ PYO
ざ ZA	じ ZI JI	ず ZU	ぜ ZE	ぞ ZO	ふ ^あ FA	ふ ^い FI		ふ ^え FE	ふ ^お FO
だ DA	ぢ DI	づ DU	で DE	ど DO	あ LA	い LI	う LU	え LE	お LO
ば BA	び BI	ぶ BU	べ BE	ぼ BO	ゃ LYA	ゅ LYU	よ LYO	っ LTU	
ぱ PA	ぴ PI	ぷ PU	ぺ PE	ぽ PO	てゃ THA	てい THI	てゅ THU	てえ THE	てよ THO
ちゃ TYA CHA CYA	ちい TYI CYI	ちゅ TYU CHU CYU	ちえ TYE CHE CYE	ちよ TYO CHO CYO	じゃ ZYA JYA JA	じい ZYI JYI	じゅ ZJU JYU JU	じえ ZYE JYE JE	じよ ZYO JYO JO
					ん NN				

8

8.2 記号一覧

項目	記号								項目	記号							
数 字	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	上付文字	0	1	2	3	4	5	6	7
	'01	'02								8	9	-	+	()	a	b
	10	11	12							c	x	y	z	α	β	γ	
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	下付文字	0	1	2	3	4	5	6	7
	IX	X								8	9	-	+	()	a	b
	i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii		c	x	y	z	α	β	γ	
	ix	x							電 設 ①	♂	♂	±	⊕	⊖	⊗	⊙	⊚
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		⊛	○	○	⊗	⊗	●	⊙	⊚
	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		⊛	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙		
	⑰	⑱	⑲	⑳						⊛	⊛	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
ギリシヤ	A	B	Γ	Δ	E	Z	H	Θ	電 設 ②	⊕	⊖	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	I	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π		⊕	⊖	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	P	Σ	T	Υ	Φ	X	Ψ	Ω	電 設 ③	⊕	⊖	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ		⊕	⊖	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π		⊕	⊖	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
	ρ	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω	その他	ヴ	カ	ケ					
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	唄	伎	嘸	醉	嗜	播	猓	喝	
	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(O)	(P)	葛	喝	厩	卿	俵	僅	軀	倦	
	(Q)	(R)	(S)	(T)	(U)	(V)	(W)	(X)	鹼	麴	甑	屢	酋	繡	蝕	啄	
	(Y)	(Z)							巽	箆	塚	摑	鄭	墳	漬	潑	
単 位	mm	cm	km	mm ²	cm ²	m ²	km ²	mm ³	麵	菜	搔	吉	高	焠	痲	痊	
	cm ³	m ³	cc	ml	dl	l	mg	kg	痘	搔	癩	癩	窠	癱	孑	祇	
	Å	°C	°K	mA	kΩ	kW	Hz	%	甑	眈	黎	鬱	鷗	蟬	啞	飴	
	%	cal	¥	\$	¢	£			溢	恢	焰	嚙					
事務記号	(株)	(有)	(社)	(代)	TEL	FAX	KK	No.	筆記体	a	b	c	d	e	f	g	h
	(印)	am	Pm							i	j	k	l	m	n	o	p
										q	r	s	t	u	v	w	x
										y	z						



8.2 記号一覧

記号

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
2 1 2			、	。 ,	・	∴	∵	∶	∷	∸	∹	∺	∻	∼	∽	∾
3	^	—	—	、	ゞ	ゞ	ゞ	〃	全	々	〃	○	—	—	—	/
4	\	~			'	'	“ ”	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]
5	{ }	< >	《 》	「 」	『 』	【 】	+ -	±	×							
6	÷	=	≠	<	>	≤	≥	∞	∴	♂	♀	°	'	”	℃	¥
7	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	☆	★	○	●	◎	◇	
2 2 2	◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒	→	←	↑	↓	≡		

ひらがな

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
2 4 2		あ	あ	い	い	う	う	え	え	お	お	か	が	き	ぎ	く
3	ぐ	け	げ	こ	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ	ぞ	た
4	だ	ち	ち	っ	っ	づ	て	で	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は
5	ば	ぱ	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ	ぼ	ぽ	ま	み
6	む	め	も	ゃ	ゃ	ゅ	ゅ	ょ	ょ	ら	り	る	れ	ろ	わ	わ
7	ゐ	ゑ	を	ん												



カタカナ

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
2 5 2		ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク
3	グ	ケ	ゲ	コ	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ	ゾ	タ
4	ダ	チ	チ	ッ	ッ	ツ	テ	テ	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ
5	バ	パ	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ	ボ	ポ	マ	ミ
6	ム	メ	モ	ャ	ャ	ユ	ユ	ヨ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ワ
7	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	カ	ケ									

8.3 漢字JISコード表(1)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
3 0 2		啞	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	葵	茜	穉	惡	握	渥	
3	旭	葦	鱗	梓	庄	幹	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾	鮎	或	
4	粟	裕	安	庵	按	暗	案	闇	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	困
5	夷	委	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異	移	維	緯	胃
6	萎	衣	謂	違	遺	医	井	亥	域	育	郁	磯	一	壺	溢	逸
7	稻	茨	芋	鱒	允	印	咽	員	因	姻	引	飲	淫	胤	蔭	
3 1 2		院	陰	隱	韻	吋	右	宇	烏	羽	迂	雨	卯	鷓	窺	丑
3	碓	白	渦	噓	唄	鬱	蔚	鰻	姥	既	浦	瓜	閨	樽	云	運
4	雲	荏	餌	叡	營	嬰	影	映	曳	榮	永	泳	洩	瑛	盈	穎
5	穎	英	衛	詠	銳	液	疫	益	馱	悅	謁	越	閱	榎	厭	円
6	園	堰	奄	宴	延	怨	掩	援	沿	演	炎	焰	煙	燕	猿	縁
7	艶	苑	菌	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥	凹	央	奧	往	応	
3 2 2		押	旺	橫	欧	殴	王	翁	襖	鶯	鷗	黄	岡	冲	荻	億
3	屋	憶	臆	桶	牡	乙	俺	卸	恩	温	穩	音	下	化	仮	何
4	伽	伽	佳	加	可	嘉	夏	嫁	家	寡	科	暇	果	架	歌	河
5	火	珂	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓	蝦	課	嘩	貨
6	迦	過	霞	蚊	俄	峨	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
7	介	会	解	回	塊	壞	廻	快	怪	悔	恢	懷	戒	拐	改	
3 3 2		魁	晦	械	海	灰	界	皆	繪	芥	蟹	開	階	貝	凱	効
3	外	咳	害	崖	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	湮	馨	蛙
4	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓	扞	攪	格	核	殼	獲	確	穫
5	覚	角	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	樂	額	顎	掛	笠	櫛
6	檀	梶	鰍	瀉	割	喝	恰	括	活	渴	滑	葛	褐	轄	且	鯉
7	叶	椀	樺	鞆	株	兜	竈	蒲	釜	鎌	嚙	鴨	栢	茅	萱	

8

8.3 漢字JISコード表(2)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
3 4 2		粥	刈	苻	瓦	乾	侃	冠	寒	刊	勘	勸	卷	喚	堪	姦
3	完	官	寬	干	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺	款	歡
4	汗	漢	澗	淮	環	甘	監	看	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦
5	莞	觀	諫	貫	還	鑑	間	閑	閔	陷	韓	館	館	丸	含	岸
6	巖	玩	癌	眼	岩	翫	贗	雁	頑	顏	願	企	伎	危	喜	器
7	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机	旗	既	期	棋	棄	
3 5 2		機	歸	毅	氣	汽	畿	祈	季	稀	紀	徽	規	記	貴	起
3	軌	輝	飢	騎	鬼	龜	偽	儀	妓	宜	戲	技	擬	欺	犧	疑
4	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵
5	黍	却	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸	宮	弓	急	救
6	朽	求	汲	泣	灸	球	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
7	巨	拒	拗	拳	渠	虛	許	距	鋸	漁	禦	魚	亨	享	京	
3 6 2		供	俠	僑	兇	競	共	凶	協	匡	卿	叫	喬	境	峽	強
3	疆	怯	恐	恭	挾	教	橋	況	狂	狹	矯	胸	脅	興	蕎	鄉
4	鏡	響	饗	驚	仰	凝	堯	曉	業	局	曲	極	玉	桐	秆	僅
5	勤	均	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊	芹	菌	衿	襟
6	謹	近	金	吟	銀	九	俱	句	区	狗	玖	矩	苦	軀	驅	駟
7	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅	串	櫛	釧	屑	屈	
3 7 2		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	叅	栗	線	桑	鋤	勳	君
3	薰	訓	群	軍	郡	卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭	珪	型
4	契	形	徑	惠	慶	慧	憩	揭	携	敬	景	桂	溪	畦	稽	系
5	經	繼	繫	野	荃	荊	螢	計	詣	警	輕	頸	鷄	芸	迎	鯨
6	劇	戟	擊	激	隙	桁	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
7	儉	倦	健	兼	券	劍	喧	圈	堅	嫌	建	憲	懸	拳	捲	

8

8.3 漢字JISコード表(3)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
3 8 2	檢	榷	牽	犬	猷	研	硯	絹	鼎	肩	見	謙	賢	軒	遣	
3	鍵	險	踴	驗	齷	元	原	敵	幻	弦	減	源	玄	現	絃	舷
4	言	諺	限	乎	個	古	呼	固	姑	孤	己	庫	弧	戶	故	枯
5	湖	狐	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇	顧	鼓	五	互
6	伍	午	吳	吾	娛	後	御	悟	梧	檣	瑚	碁	語	誤	護	醐
7	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功	効	勾	厚	口	向	
3 9 2	后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工	巧	巷	幸	庀	庚	康	
3	弘	恒	慌	抗	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構	江	洪
4	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱
5	腔	膏	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉦	砭	鋼	閤	降
6	項	香	高	鴻	剛	劫	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	翹	克	刻
7	告	国	穀	酷	鵠	黑	獄	漉	腰	甑	忽	惚	骨	狍	込	
3 A 2	此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇	昏	昆	根	梱	混	痕	
3	紺	艮	魂	些	佐	又	唆	嵯	左	差	查	沙	磋	砂	詐	鎖
4	袞	坐	座	挫	債	催	再	最	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽
5	歲	濟	災	采	犀	碎	砦	祭	齋	細	菜	裁	載	際	劑	在
6	材	罪	財	冴	坂	阪	堺	柵	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
7	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜	鮭	笹	匙	冊	刷	
3 B 2	察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雜	皐	鯖	捌	鏹	鮫	皿	晒	
3	三	傘	參	山	慘	撒	散	棧	燦	珊	產	算	纂	蚕	讚	贊
4	酸	餐	斬	暫	殘	仕	仔	伺	使	刺	司	史	嗣	四	士	始
5	姉	姿	子	屍	市	師	志	思	指	支	攷	斯	施	旨	枝	止
6	死	氏	獅	祉	私	糸	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
7	諮	資	賜	雌	飼	齒	事	似	侍	兒	字	寺	慈	持	時	



8.3 漢字JISコード表(4)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
3C2		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而	耳	自	蒔	辞	汐	鹿
3	式	識	嶋	竺	軸	穴	零	七	叱	執	失	嫉	室	悉	湿	漆
4	疾	質	実	蔀	篠	俚	柴	芝	屢	蕊	縞	舍	写	射	捨	赦
5	斜	煮	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺	尺	杓	灼	爵
6	酌	积	錫	若	寂	弱	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
7	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹	綬	需	囚	収	周	
3D2		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋	終	繡	習	臭	舟	蒐
3	衆	襲	讐	蹴	輯	週	首	酬	集	醜	什	住	充	十	從	戎
4	柔	汁	洪	獸	縱	重	銃	叔	夙	宿	淑	祝	縮	肅	塾	熟
5	出	術	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循	旬	楯	殉	淳
6	準	潤	盾	純	巡	遵	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
7	署	書	薯	諸	諸	助	叙	女	序	徐	恕	鋤	除	傷	償	
3E2		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	契	妾	娼	宵	将	小	少
3	尚	庄	床	廠	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶	松	梢
4	樟	樵	沼	消	涉	湘	燒	焦	照	症	省	硝	礁	祥	称	章
5	笑	粧	紹	肖	莒	蔣	蕉	衝	裳	訟	証	詔	詳	象	賞	醬
6	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上	丈	丞	乘	冗	剩	城	場	壤	孃	常
7	情	擾	条	杖	淨	狀	量	穰	蒸	讓	釀	錠	囑	埴	飾	
3F2		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食	蝕	辱	尻	伸	信	侵
3	唇	娠	寢	審	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申	疹	真
4	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診	身	辛	進	針	震	人	仁	刃
5	塵	壬	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靱	筍	諏	須	酢	凶	厨
6	逗	吹	垂	帥	推	水	炊	睡	粹	翠	衰	遂	醉	錐	錘	隨
7	瑞	髓	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉	梠	菅	頗	雀	裾	

8.3 漢字JISコード表(5)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
4 0 2		澄	摺	寸	世	瀬	畝	是	淒	制	勢	姓	征	性	成	政
3	整	星	晴	棲	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製	西	誠
4	誓	請	逝	醒	青	静	齐	税	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析
5	石	積	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙	接	撰	折	設
6	窃	節	説	雪	絶	舌	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戰
7	扇	撰	栓	梅	泉	浅	洗	染	潜	煎	煽	旋	穿	箭	線	
4 1 2		織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐	選	遷	錢	銑	閃	鮮
3	前	善	漸	然	全	禪	繕	膳	糲	噌	塑	岨	措	曾	曾	楚
4	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創
5	双	叢	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匝	惣	想	搜	掃	挿	搔
6	操	早	曹	巢	槍	槽	漕	燥	争	瘦	相	窓	糟	総	綜	聡
7	草	莊	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗	霜	騷	像	増	憎	
4 2 2		臟	蔵	贈	造	促	側	則	即	息	捉	束	測	足	速	俗
3	属	賊	族	統	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜	他	多
4	太	汰	詫	唾	墮	妥	惰	打	柁	舵	梢	陀	馱	驂	体	堆
5	対	耐	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滯	胎	腿	苔	袋	貸
6	退	逮	隊	黛	鯛	代	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
7	宅	托	扱	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁	諾	茸	胤	蛸	只	
4 3 2		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	豎	迪	棚	谷	狸	鱈	樽	誰
3	丹	单	嘆	坦	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	筭	綻	耽
4	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	彈	断	暖	檀	段	男	談	值	知	地
5	弛	恥	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遲	馳	築	畜	竹	筑	蓄
6	逐	秩	窒	茶	嫡	着	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
7	註	酎	鑄	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯	丁	兆	凋	喋	寵	

8

8.3 漢字JISCコード表(6)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
4 4 2		帖	帳	庁	弔	張	彫	徵	懲	挑	暢	朝	潮	牒	町	眺
3	聽	脹	腸	蝶	調	諜	超	跳	鈔	長	頂	鳥	勅	抄	直	朕
4	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎	槌	追	鎚	痛	通	塚	拇	搥
5	槻	佃	漬	柘	辻	薦	綴	鍔	椿	潰	坪	壺	孀	紬	爪	吊
6	釣	鶴	亭	低	停	偵	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
7	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締	艇	訂	諦	蹄	遞	
4 5 2		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴	的	笛	適	鎬	溺	哲
3	徹	撤	轍	迭	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼	軫	顛
4	点	伝	殿	澱	田	電	兎	吐	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡
5	登	菟	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴	怒	倒	党	冬
6	凍	刀	唐	塔	塘	套	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	栲	棟
7	盜	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	禱	等	答	筒	糖	統	到	
4 6 2		董	蕩	藤	討	騰	豆	踏	逃	透	鐙	陶	頭	騰	鬪	働
3	動	同	堂	導	懂	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠	鴉	匿
4	得	徳	洩	特	督	禿	篤	毒	独	読	朽	橡	凸	突	椽	届
5	鳶	苦	寅	酉	滯	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁	頓	呑	曇	鈍
6	奈	那	内	乍	凧	薙	謎	灘	捺	鍋	楮	馴	繩	啜	南	楠
7	軟	難	汝	二	尼	弍	迹	匂	賑	肉	虹	廿	日	乳	入	
4 7 2		如	尿	菲	任	妊	忍	認	濡	襦	祢	寧	葱	猫	熱	年
3	念	捻	撚	燃	粘	乃	迺	之	埜	囊	惱	濃	納	能	腦	膿
4	農	視	蚤	巴	把	播	霸	杷	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬
5	俳	糜	拜	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配	倍	培	媒	梅
6	楨	煤	猥	買	売	賠	陪	這	蠅	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
7	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠	爆	縛	莫	駁	麥	

8

8.3 漢字JISコード表(7)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
4 8 2		函	箱	碯	箸	肇	筇	櫨	幡	肌	焮	畠	八	鉢	澆	癸
3	醜	髮	伐	罰	技	筏	闊	鳩	嘶	塙	蛤	隼	伴	判	半	反
4	叛	帆	搬	斑	板	汜	汎	版	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範
5	采	煩	頒	飯	挽	晚	番	盤	磬	蕃	蛮	匪	卑	否	妃	庇
6	彼	悲	扉	批	披	斐	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
7	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微	枇	毘	琵琶	眉	美	
4 9 2		鼻	柎	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱	肘	弼	必	畢	筆	逼
3	桤	姪	媛	紐	百	謬	佞	彪	標	氷	漂	瓢	票	表	評	豹
4	廟	描	病	秒	苗	錨	鋏	蒜	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧
5	竇	頻	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	富	布	府	怖	扶	敷
6	斧	普	浮	父	符	腐	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
7	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	落	伏	副	復	幅	服	
4 A 2		福	腹	複	覆	淵	弗	扌	沸	仏	物	鮒	分	吻	噴	墳
3	憤	扮	焚	奮	粉	糞	紛	雰	文	聞	丙	併	兵	塤	幣	平
4	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	篋
5	偏	變	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	媿	弁	鞭	保	舖	鋪
6	圃	捕	步	甫	補	輔	穗	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
7	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖	抱	捧	放	方	朋	
4 B 2		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬	蜂	褒	訪	豐	邦	鋒
3	飽	鳳	鵬	乏	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴	望	某
4	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿	鉞	防	吠	頰	北	僕	卜	墨
5	撲	朴	牧	睦	穆	釦	勃	沒	殆	堀	幌	奔	本	翻	凡	盆
6	摩	磨	魔	麻	埋	妹	昧	枚	每	哩	榎	幕	膜	枕	鮪	枉
7	鱒	榭	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	仄	繭	磨	万	慢	滿	

8

8.3 漢字JISコード表(8)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
4C2		漫	蔓	味	未	魅	巳	箕	岬	密	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙
3	耗	民	眠	務	夢	無	牟	矛	霧	鷓	棕	婿	娘	冥	名	命
4	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅	免	棉	綿	緬	面	麵	摸	模
5	茂	妄	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	默	目	柰	勿	餅
6	尤	戾	粿	貫	問	悶	紋	門	匆	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
7	矢	厄	役	約	藥	詛	躍	靖	柳	藪	鎗	愉	愈	油	癒	
4D2		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽	悠	憂	揖	有	柚	湧
3	涌	猶	猷	由	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予	余	与
4	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸	揚	搖	擁	曜	楊	樣	洋	溶
5	熔	用	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謠	踊	遙	陽	養	慾	抑	欲
6	沃	浴	翌	翼	淀	羅	螺	裸	來	萊	賴	雷	洛	絡	落	酪
7	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覽	利	吏	履	李	梨	理	璃	
4E2		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立	莅	掠	略	劉	流	溜
3	琉	留	硫	粒	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚	兩	凌
4	寮	料	梁	涼	獺	療	瞭	稜	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力
5	綠	倫	厘	林	淋	熒	琳	臨	輪	隣	鱗	麟	璫	墨	淚	累
6	類	令	伶	例	冷	勵	嶺	伶	玲	礼	苓	鈴	隸	零	靈	麗
7	齡	曆	歷	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐	漣	煉	簾	練	聯	
4F2		蓮	連	鍊	呂	魯	櫓	炉	賂	路	露	勞	婁	廊	弄	朗
3	樓	榔	浪	漏	牢	狼	籠	老	聾	蠟	郎	六	麓	祿	肋	錄
4	論	倭	和	話	歪	賄	脇	惑	杵	鷺	互	亘	鰐	詫	藁	蕨
5	椀	湾	碗	腕												

8.3 漢字JISコード表(9)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
5 0 2		弌	丂	丕	个	丩	、	井	丿	乂	乖	乘	亂	丨	豫	事
3	舒	弌	于	亞	亟	一	亢	京	毫	亶	从	仍	仄	仆	仂	仗
4	仞	仞	仞	价	伉	佚	估	佛	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻
5	佩	佰	侑	佯	來	侖	儘	俛	俟	俎	俘	俛	俑	俚	俐	佻
6	俚	倚	倨	倔	倪	控	倅	倅	倣	倡	倩	倬	倬	俯	們	倆
7	偃	假	會	偕	修	偈	做	偕	偈	偷	傀	倣	傅	偃	傲	
5 1 2		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僭	僮	價	僵	儉	僑	儂
3	儘	儕	儁	儂	儂	儂	儂	儂	儂	兀	兒	兌	免	競	競	
4	兩	兪	兮	冀	冂	回	册	冉	冏	冓	冓	冕	一	冤	冓	冓
5	寫	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	凜	几	處	凜	凭
6	凰	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	冓	剝	剝	剝	剝	剝
7	剝	剔	剪	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	剝	
5 2 2		辦	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬
3	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸
4	卒	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅
5	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥	厥
6	呀	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听	听
7	咒	呻	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	咀	
5 3 2		咫	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒	晒
3	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵	唵
4	喟	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞
5	嗤	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔	嗔
6	噫	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤
7	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤	噤

8

8.3 漢字JISコード表(10)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
5 4 2		圀	國	圍	圓	團	圖	嗇	園	圪	圻	圼	圽	圾	址	坏
3	坩	垂	垩	坡	坨	坩	垓	垠	圻	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠
4	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠	垠
5	墅	堦	墟	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀	墀
6	壘	壤	壘	壯	壺	壹	壻	壺	壽	夕	夕	夂	夂	夂	夂	夂
7	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭	夭
5 5 2		奸	妁	妝	佞	佞	妣	妣	姆	姨	姜	妍	姘	姚	娥	娟
3	娑	娜	娉	娉	姍	姍	姍	姍	媪	婢	婪	媚	媪	媪	媪	媪
4	媽	媽	媪	娉	嫩	嫻	嫻	嫻	嬌	嬋	嬋	嬋	嬋	嬋	嬋	嬋
5	孃	孃	孃	子	孕	孛	孛	孛	孩	孰	孳	孳	孳	孳	孳	孳
6	它	宦	宸	寃	寇	霍	寔	寐	寤	寤	寤	寤	寤	寤	寤	寤
7	寶	剋	將	專	對	尔	尠	尠	尸	尹	屁	屈	屎	屙	寶	
5 6 2		屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐
3	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
4	峯	岬	崑	崔	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢	崢
5	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄	嶄
6	巫	己	卮	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀	帀
7	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟	幟
5 7 2		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡
3	井	弃	弃	弃	弃	弋	弋	弋	弋	弋	弋	弋	弋	弋	弋	弋
4	亼	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖	彖
5	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙	徙
6	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙	怙
7	協	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆	恆

8.3 漢字JISCコード表(11)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
5 8 2		悄	悛	悖	悗	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
3	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
4	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
5	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
6	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
7	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛
5 9 2		戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
3	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
4	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
5	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
6	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
7	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛	戛
5 A 2		擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
3	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
4	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
5	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
6	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
7	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻	擻
5 B 2		曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄
3	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄
4	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄
5	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄
6	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄
7	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄	曄

8

8.3 漢字 J I S コード表(12)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
5 C 2		楫	棧	棕	櫻	椒	接	棗	棟	枷	棹	棠	楨	柅	柅	柅
3	檣	樹	楡	楹	楷	糊	楸	楸	楔	椋	楮	椹	椹	椹	椹	椹
4	楡	楞	棟	楹	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸	楸
5	榻	檠	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
6	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
7	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
5 D 2		榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
3	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
4	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
5	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
6	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
7	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷	榷
5 E 2		沍	泛	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
3	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
4	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
5	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
6	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
7	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯	泯
5 F 2		漾	漓	滷	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆	澆
3	澎	溜	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂	濂
4	濱	濮	濂	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉
5	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉
6	烙	焉	烽	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜	焜
7	煩	熨	熬	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭

8.3 漢字JISコード表(13)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
6 0 2		燧	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰	爲	爻	俎	爿	牀	牆
3	牋	牘	牴	牾	犁	犂	犛	犛	犛	犛	犛	犛	犛	犛	犛	犛
4	狎	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒	狒
5	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥	猥
6	玻	珀	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉	珉
7	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑤	瑾	璋	璞	璧	瓊	瓏	瓔	玳	玳
6 1 2		瓠	瓣	舄	舄	瓮	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌	甌
3	蔓	甕	甕	嘗	甦	甬	甬	甬	甬	甬	甬	甬	甬	甬	甬	甬
4	畧	晝	晝	畸	當	疆	疇	疇	疇	疇	疇	疇	疇	疇	疇	疇
5	痂	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖	疖
6	痼	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁	瘁
7	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰	瘰
6 2 2		癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩
3	鞞	輝	鞞	孟	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍	盍
4	眇	眩	眇	眞	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇
5	辜	睹	睹	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋	瞋
6	矗	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚	矚
7	碚	碌	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚	碚
6 3 2		磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧
3	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕	祕
4	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬
5	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉	穉
6	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶	窶
7	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦	竦

8

8.3 漢字JISコード表(14)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
6 4 2		筐	筭	筍	笋	筌	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇
3	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍
4	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇
5	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈
6	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等
7	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊	筍	筇	筈	等	筊
6 5 2		紂	紃	約	紅	紆	紇	紈	紉	紊	紋	紌	納	紎	紏	紐
3	紊	紋	紌	納	紎	紏	紐	紑	紒	紓	純	紕	紖	紗	紘	紙
4	純	紕	紖	紗	紘	紙	級	紛	紜	紝	紞	紟	素	紡	索	紣
5	紡	索	紣	紤	紥	紦	紧	紨	紩	紪	紫	紬	紭	紮	累	細
6	紮	累	細	紱	紲	紳	紴	紵	紶	紷	紸	紹	紺	紻	紼	紽
7	紽	紾	紿	紻	紼	紽	紾	紿	紿	紿	紿	紿	紿	紿	紿	紿
6 6 2		罇	罈	罉	罊	罋	罌	罍	罎	罏	罐	网	罒	罖	罗	罘
3	罖	罗	罘	罙	罚	罛	罜	罝	罞	罟	罠	罡	罢	罣	罤	罥
4	罣	罤	罥	罦	罧	罨	罯	罰	罱	署	罳	罴	罵	罶	罷	罸
5	罸	罹	罺	罻	罼	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾
6	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿
7	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽	罾	罿	罽
6 7 2		隋	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓
3	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓
4	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓
5	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓
6	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓
7	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓	腓

8.3 漢字JISコード表(15)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
6 8 2		茵	茴	茗	苾	茱	荀	茹	荐	苔	茯	茫	茗	荔	莅	莖
3	莪	荅	莢	莖	莫	莎	蒻	莊	荼	菟	荳	葱	莠	莉	苒	菴
4	萱	董	莧	菽	萃	菘	萋	菁	蒿	萇	菠	菲	萍	范	蒨	莽
5	莸	菱	蔴	葭	葶	萼	萸	葳	葶	葫	蒟	葭	蒂	葩	葆	萬
6	葯	施	蒿	蒟	葢	蕪	蒿	蒟	蒞	蒼	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
7	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6 9 2		蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
3	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
4	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
5	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
7	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6 A 2		蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
3	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
4	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
5	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
7	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6 B 2		蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
3	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
4	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
5	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
6	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟
7	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟	蒟

8

8.3 漢字JISコード表(16)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
6 C 2		諫	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒	讓	讖	讜	讚	訝	谿
3	谿	豈	詭	豎	豐	豕	豢	豕	豕	豕	貳	貳	貳	貳	貳	貳
4	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳
5	賽	賺	賻	贊	贊	贊	贊	贏	贍	贍	贍	贍	贍	贍	贍	贍
6	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅	赅
7	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟	跟
6 D 2		蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
3	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
4	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
5	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
6	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
7	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨	迨
6 E 2		遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐
3	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐	遐
4	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤	郤
5	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫
6	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵	釵
7	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤	鉤
6 F 2		錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙
3	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔	鎔
4	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄
5	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄	鑄
6	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏	閏
7	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關

8.3 漢字JISコード表(17)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
7 0 2		陝	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟
3	隶	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸	隸
4	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏	霏
5	靜	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠	靠
6	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋	鞋
7	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶
7 1 2		顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
3	舖	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
4	饑	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒
5	駁	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱	駱
6	騾	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕	驕
7	體	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒	髒
7 2 2		髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻
3	魄	魃	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏	魏
4	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢
5	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨	鯨
6	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽	鯽
7	缺	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩	鳩
7 3 2		鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝
3	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄	鷄
4	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚
5	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩
6	徽	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻	鬻
7	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧	齧
7 4 2		堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯

8

8.4 主な仕様

■主な仕様

入力方法	ローマ字/かな入力、英数字入力
かな漢字変換方法	熟語変換、単漢字変換
辞書語数	48,000語
文字種類	<ul style="list-style-type: none">● J I S C 6226-1983を基本とする 漢字 J I S 第 1 水準約2,900文字、J I S 第 2 水準約3,300文字 その他 J I S 準拠 (かな、カナ、英数字等)● オリジナル記号(単位、電設記号、丸囲み英数字等約270文字)
文字高さ	2・3・4・6 mm(文字天地)、半角・倍角、特殊文字1.3mm(文字天地)
書体	オリジナル細角ゴシック
印刷方式	熱転写シリアルドットマトリクス、印字密度300ドット/インチ
テープカット	自動ハーフカットおよびマニュアル全カット(切り離し)
入力文字数	最大119文字(但し、一行印字時)
表示方法	L C Dドットマトリクス 128×40画素 表示文字数 8桁2行 インジケータ付
内部メモリー	語句登録 5文字×30ファイル
外部メモリー	専用メモリーカード LM-MR300(別売品)使用可 最大119文字×50ファイル
電源方式	アルカリ単2乾電池×4本、もしくは 専用A CアダプタLM-AD300
外形寸法	200mm(幅)×290mm(奥行き)×62mm(高さ)
重量	1.2kg(カセット、電池は除く)
動作保証温度	5℃～35℃(印字保証10℃～35℃)
保存温度	-10℃～45℃(カセット、電池は除く)
オートパワーオフ	約5分間
付属品	<ul style="list-style-type: none">●アルカリ乾電池(単2)4本●テープカセット(9mm幅・白)1巻●チューブカセット1巻●インクリボンカセット(黒)1巻●A Cアダプタ

9. メンテナンス

9.1 故障かなと思うまえに

9.1.1 エラーメッセージ一覧(1)

!カッター異常		ハーフカッターの動作不良です。新品の乾電池に交換するか、アダプタを接続して、電源を入れ直してください。カッター部にテープの切れ端や異物が無いか確認してください。
!文字数オーバー		入力できる文字数を超過しています。入力できる文字数は、行マーク・ピッチマークを含んで120文字までです。
!サイズオーバー		入力文書の長さが、設定されている印字長より長くなった場合(頁51参照)、テープ幅や改行による文字サイズの制限にかかった場合(頁27参照)に表示されます。
!行数オーバー		許された行数以上の入力をしようとしています(頁27参照)。
!ピッチオーバー		文書の長さが設定しているピッチ長より長くなると表示します。但し、文字は入力されます。また、文書がピッチ長より長いままで印刷しようとした場合や、文字を削除してピッチ長に合わせるときにもピッチ長に合うまで操作の度に表示します。頁66、67参照。
!印字長オーバー		文書の長さが設定されている印字長より長くなるときに表示します。頁51参照。
!全長オーバー		文書の長さが5 m以上になるとき。作成できるラベルの長さは最大5 mまでです。
!該当辞書	無	漢字変換できない言葉を変換しようとしたとき。頁36~37参照。
!文書	無	入力文書や登録文書が無いとき。
!設定	不可	入力文書に対して設定変更ができないとき。
!設定	不可	特殊小文字と他のサイズ文字を混在させようとするなど、入力文書に対して設定変更できないとき。
!修正	不可	カーソル位置が間違っているときや、入力文書に対して修正変更できないとき。
!登録	不可	入力文書が無いときや、カーソル位置が間違っていて登録できないとき。
!位置	不適	登録したい文字の位置指定が間違っているとき。頁71、72参照。
!範囲	不適	登録範囲の指定が間違っているとき。頁71、72参照。
!呼出	不可	未登録状態のものを呼び出そうとしたとき。
!ピッチ位置不適		入力文書の先頭にピッチ入力指定がされていないとき。頁64参照。
!連番	桁不足	連番の桁上げスペースがないとき。頁69参照。
!連番	不適	連番の処理によって異常が発生したとき。

9.1 故障かなと思うまえに

9.1.1 エラーメッセージ一覧(2)

！カード無	メモリーカードがセットされずカード操作をした場合
！カード異常	本機用に初期化されていないメモリーカードがセットされた場合
！データ異常	メモリーカードに登録されている文書に異常が発生した場合
！イメージ不可	入力文書がない時や特殊小文字文書入力の際にイメージ表示ができない場合
！カセット 無	カセットがうまくセットされていない場合。頁11参照。
！電池交換	本体の電池交換（乾電池の交換期間を知らせます。）
！電池不足	本体の電池不足
！カード電池交換	メモリーカードの電池交換
！カード電池不足	メモリーカードの電池不足（不足になると登録は出来ません。）
！複写位置不適	カーソルの位置を P または 1 マークの下以外で ^{複写} ☐ キーを押した場合
！複写 無	複写位置を指定しないで ^{貼付} 0 め キーを押した場合
チューブ入力文書 全文削除 実行？	チューブカセット、又はアタッチメントをセット状態で入力し、テープカセットに入れ換えた場合
テープ入力文書 全文削除 実行？	テープカセットをセット状態で入力し、チューブカセット又はアタッチメントに変えた場合
アタッチメント カセット未装着	アタッチメント、カセットを装着しないで電源を入れた場合
テープ入力文書 ！呼出 不可	メモリーカードから呼出した文書が、テープカセットでの入力文書で、チューブカセット又はアタッチメントを装着した場合
チューブ入力文書 ！呼出 不可	メモリーカードから呼出した文書が、チューブカセット又はアタッチメントの入力文書でテープカセットを装着した場合

9.1 故障かなと思うまえに

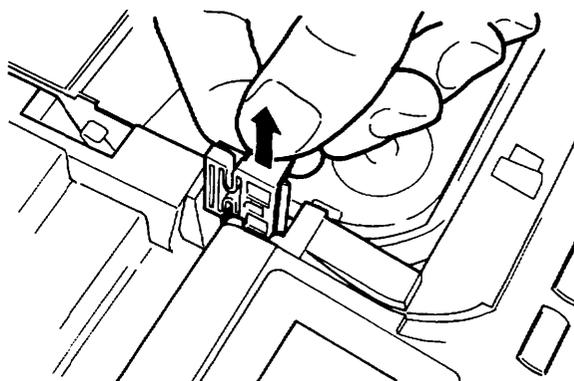
9.1.2 ハーフカッタユニットの交換

ハーフカッタの寿命は、5,000カットが目安となります。

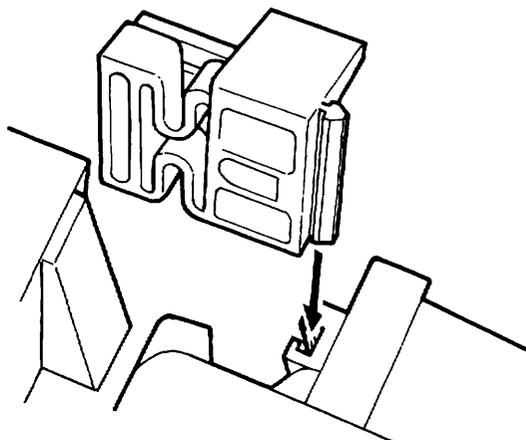
切れなくなったり、ハクリ紙まで深く切れすぎたりしたら、別売のハーフカッタカートリッジ(2枚入)をお買い求めの上、交換して下さい。

①カセットカバーを開きます。

②赤いつまみを持ち上げずします。



③新しいハーフカッタユニットのレール部を白いガイド溝に差し込みます。



9

⚠ 注 意

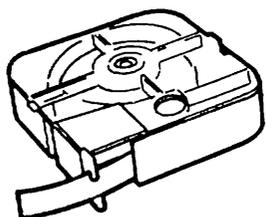


●カッター刃には絶対手をふれないで下さい。

消耗品オプション一覧

下記の内、◎印品はLM-300専用品が共通にお使いいただけます。無印品はLM 310T・360Tの専用品をお使い下さい。

◎【テープカセット】・8m巻き ¥700



	白	透明	黄色
5mm巾テープ	LM-TP305W	LM-TP305T	LM-TP305Y
9mm巾テープ	LM-TP309W	LM-TP309T	LM-TP309Y
12mm巾テープ	LM-TP312W		LM-TP312Y

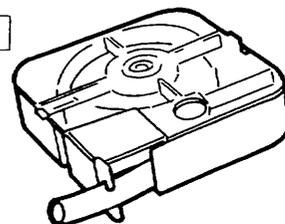
◎【チューブカセット】・白 2m巻き ¥600

内径φ3.2mm相当	○	LM-TU332
内径φ3.6mm相当	○	LM-TU336
内径φ4.2mm相当	○	LM-TU342
内径φ5.2mm相当	○	LM-TU352

◎【詰め替えチューブ】

・白 1.8m巻き10巻入り ¥3,000

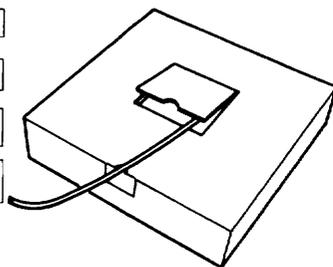
○	LM-TU332BOX
○	LM-TU336BOX



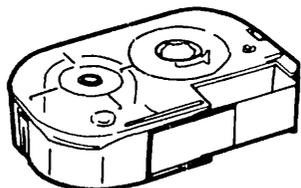
【マックス丸チューブ】

内径φ3.2mm相当	100m	¥2,000
内径φ3.6mm相当	100m	¥2,000
内径φ4.2mm相当	80m	¥2,500
内径φ5.2mm相当	80m	¥2,500

○	LM-TU332T
○	LM-TU336T
○	LM-TU342T
○	LM-TU352T



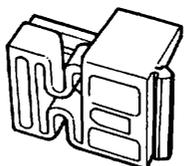
【インクリボンカセット】・テープ約4巻分の長さ ¥1200



黒：LM-IR312BT
赤：LM-IR312RT

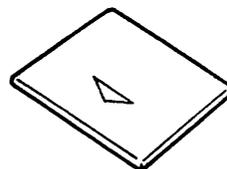
【ハーフカッターユニット】

・1箱2ヶ入り ¥1200



LM-HC300T

◎【メモリーカード】・¥9000



LM-MR300